

阿佐ヶ谷スパイダース公演

はたらくおとし

長塚圭史

登場人物

茅ヶ崎

夏目

前田望兄

前田愛弟

佐藤蜜雄

佐藤豊蜜

佐藤涼

河口満寿夫

真田三平

工場の事務所。冬の夕暮れ時。雪が降っている。事務所内はどこか閑散としていて覇気がない。積みあげられた段ボールも古く劣化しており、今は機能していないことが伺える。作業着を着た男、茅ヶ崎は煙草を燻らせつつ窓の外を見ている。同じく作業着を着た夏目はストープの傍の椅子に座り貧乏揺すりしながら暖まっている。寝間着姿にちゃんちゃんこという出で立ちの佐藤豊蜜はデスクに座りながら凶鑑のようなものを眺め、ときおり咳をする。やがて咳が激しくなり、目の前のお茶をバチャリと零す。

豊蜜

あ！

豊蜜は二人の反応を一瞬伺ってから、

豊蜜

しづれいすました。

と片付け始める。その間も咳をする。そして片付けている中、また咳き込んでいき、お茶を拾っては零し、また別のものを落としては拾う。辺りを散らかしまくる状態に。

茅ヶ崎

佐藤くんは風邪だな。

豊蜜

あ、やっぱりこいづんですかね。

夏目

風邪だろどう見ても。

豊蜜

ですよねこいづね。

茅ヶ崎

今日もういいよ。

豊蜜

でもまだ時間さなってねえですし。

茅ヶ崎

いいよ。今日はもうしんどそうだし。

豊蜜

あでも、あどちよっとだし。あどこいづだけ。

茅ヶ崎

片付けようすればするほど散らかっちゃいそうだしさ。本当にもういいから。勤務時間もあとちよっとだし。

夏目

(舌打ちして) 勤務時間も何もないだろ。

豊蜜

んでもこいづは？

茅ヶ崎

夏目さん、やってあげて。

夏目

なんで俺が片付けるの。

茅ヶ崎

だって佐藤くん風邪なんだし、夏目さん勤務時間あとちよっとあるんだから。

夏目

はあ！？

豊蜜　　いがすいがす。僕しんどいけどやっときますから。

茅ヶ崎　ほらしんどいんだってさ。

夏目　　お前バイトの分際でしんどいとか言うなよな。それにそれぶちまいたのお前だろ？

豊蜜　　あれ？　僕がバイトだったら、夏目さんだって勤務時間だすべ？

夏目　　潰れた工場で勤務時間もクソもないだろ。

豊蜜　　んだらバイトの僕にも勤務時間はクソつつうごどですか。

夏目　　じゃもうそうだよ。それでいいから帰れよお前は家に。立派なお家あるんだからそっちに帰って下さいよお坊ちゃん。

豊蜜　　あ、(※あーりゃりゃ)　そいな「ご言いますか。

夏目　　事実だろ。

豊蜜　　…あんな葉漬けの家僕んちじゃねえですよ。

茅ヶ崎　ほら、夏目さん。佐藤くんも、もう身体しんどいんだから寝ていいから。んでもまだ時間になってねえですし。こいづもまだ片付けてねえですよ。

茅ヶ崎　いいからそれはもう、あの、夏目さんにやってもらっから。

夏目　　だから何で俺なんだよ。

豊蜜　　(咳き込む)

茅ヶ崎　ほら佐藤くんはもう長くないんだから。

豊蜜　　ちよつとやめでくださいただの風邪なのに。(※だから)

茅ヶ崎　そう言っとけば夏目さんも納得するから。

夏目　　聞こえてんだよ。自分で汚したんだから自分で片付けろよ甘えてないでさ！

豊蜜　　甘えでなんかねがすちゃ！

茅ヶ崎　ほらあ、もう揉めない揉めない。潰れた工場で喧嘩してたらみっともないよ。

豊蜜　　んじゃあやります！　しんどいけどやります！　あーしんど！　んだけどやりますよ！

夏目　　お前が散らかしたんだらうがよ！

とそこに作業着に防寒服の前田兄が帰ってくる。

茅ヶ崎　おかえり前田くん。

前田兄　また喧嘩してるんですか？

茅ヶ崎　聞こえてた？

前田兄　バカ聞こえますよ。中あったかいなあ。

豊蜜　　前田さんお茶っこ入れましょうが。

前田兄　あ、いらないや。

夏目 お前他にやることあるだろ？

豊蜜 何でも率先してやんのがバイトの仕事だべ。

茅ヶ崎 佐藤くんはいいよ。また咳してお茶場グチャグチャになっちゃうんだから。

(夏目に) 夏目さん。

夏目 だから何で俺なんだよ？

茅ヶ崎 だって夏目さん暇そうなんだもん。

夏目 じゃ何か仕事くれんのか？

豊蜜 まだそいなこと言って！ 言われた社長「シヤジョウ」の気持ち考えだこと

ありますか！ いいがすよ僕がお茶つこだしますがー！

佐藤くん、俺いらんないって言ったんだ。

前田兄 いらねえのがオイ！

前田兄 あ、あと佐藤くんあんまり近づくと唾飛ぶからもうちょっとあっち行って

くれるかな。

豊蜜 あ、はーい。バックしまーす。

と仕事終了の音楽が鳴る。

茅ヶ崎 はいみんなお疲れさん！

豊蜜 お疲れさま！

前田兄 お疲れさまです。

豊蜜は机の下から布団を引つ張り出す。前田はカップラーメンを取り出す。

豊蜜 あれ？前田さん今日も真っ直ぐ帰らねえのすか？

前田兄 うん。今日もちよっとやることあるから。

豊蜜 あ、前田さん、ひよっとしてまだあれすか？

前田兄 うん。あ、おい言うなよ。まだ内緒なんだから。

豊蜜 大丈夫ですって。(辺りを伺ってまた再び)あれ？ 前田さん今日も真っ直

ぐ帰らねえですか？

前田兄 あれ？ え？ いやちよっとね。

豊蜜 え？前田さん何すんすか？ 社長知「ス」ってます？

茅ヶ崎 知らないよ。何？ 何すんの？

豊蜜 いやあ、僕は知「ス」らないですう。

茅ヶ崎 前田くん何すんの？

前田兄 あ、いや、ちよっと。

茅ヶ崎 あ、そう。ちよっとって何ですかね夏目さん、ね？

夏目 さあね。

前田兄
ねえ佐藤くん。
豊蜜
はい。何ですか？
前田兄
そういうの完全に余計な芝居だから。
豊蜜
あ、はい。
夏目
茅ヶ崎さん、ちょっといいかな？
茅ヶ崎
何ですか？
夏目
ちょっと表。
前田兄
表寒いですよ。
茅ヶ崎
表寒いつて夏目さん。
夏目
…じゃちょっとこっち来てよ。

と夏目は茅ヶ崎を部屋の隅に連れてきて、椅子を出す。

夏目
座って。
茅ヶ崎
（座って）何ですか？
夏目
何ですかじゃなくてさ、いつまで続くのこの状態？
茅ヶ崎
……。
夏目
ねえ、
茅ヶ崎
いや、俺だって考えてますよ。
夏目
考えてないでしょ煙草ばっか吸って。じゃ何考えてんの。
茅ヶ崎
だから今もそこでさっきまでね、
夏目
何考えてたんだよ。
茅ヶ崎
そりゃ……リンゴのことを考えてたんです。
夏目
茅ヶ崎さん、
茅ヶ崎
こう目を瞑ってね、あの味を想像してみるんですよ。こうすると真っ赤なリンゴが浮かんでくるでしょう。ほらほら浮かんできますよ。ほら、ねえ。
夏目
……。

豊蜜は布団を敷いて横になる。

豊蜜
んじゃお先「サギ」すいません。
前田兄
あ、おやすみ。
夏目
ほら！あれもおかしいよね？　ちょっと茅ヶ崎さんもう目開けて！
茅ヶ崎
だっておかしいでしょこれ！
夏目
何が？
茅ヶ崎
何がじゃなくてさ、こうやって潰れた工場で、九時から五時までぼんや

りして、時間が来たらお疲れさまってやってんのがおかしいし、あいつが、あのバイトが未だに事務所で寝間着着ちゃって寝泊まりしちゃってんのもおかしいだろ？ 次の返済期限まであと僅かなんだよ。この工場も明け渡さなきゃなくなるんだよ。目瞑ってニヤニヤしながら作れもしないリンゴの事考えてる場合じゃないんだよ。

茅ヶ崎 じゃいいですよ夏目さん、もう来なくてもえ？

茅ヶ崎 いいですよもう潰れちゃってんだし。今こういうシンキングタイムですし、夏目さんももう東京帰ってやり直したいんでしょ？

夏目 ちよつと待ってよ、いいってどういうこと？

茅ヶ崎 夏目さんも九時に来なくていいですし、五時にあがらなくてもいいですし、あ、作業着はよかったら記念に差し上げますんで。

夏目 え？何？じゃもう俺はいらなくてことなの？

茅ヶ崎 いや、いらないとかじゃなくて、やることがないわけですし、今はこう目を瞑って作りたいリンゴの味と形をニヤニヤしながら考えるシンキングタイムなんです本当に。

夏目 何だよいらんのかよ。いらんないならいらんないって言えばいいのにさ。

茅ヶ崎 いや、違うって言ってますよね夏目さん、今はシンキング…

夏目 だってそういうことでしょ！

前田兄 じゃもういらんない。

夏目 何でお前に言われなきゃいけないんだよ！

前田兄 だって夏目さん「おかしいおかしいこのままじゃダメだ」って言ってるばかりでこの時期くるまで全然何もしてなかったじゃありませんか。

夏目 そんなことねえよ。してんだろうがよ。少なくともこの目瞑ってニヤニヤよりかよっぼどしてんだよ！

前田兄 何してんですか？

夏目 それはお前、

前田兄 何してんですか？

夏目 金の工面とかさあ。

前田兄 金？ 金の工面って言いました今？え？夏目さんが金の工面ってことですか？ はっはー。あれ？ この、この、

と積まれている段ボールの山からリンゴの梱包材を乱暴に取り出しては投げつけながら、

前田兄 これ何ですかこれ？ これリンゴが失敗した時、せめて梱包材作ろうって土地売って工場作ってすぐもうすぐ潰しちゃったの誰の所為でしたっけ

夏目
これ？
やめろよ投げんな。

前田兄
こんなねえ、これこんな分厚いスチロール特注してね、こんな、これ一つがリングそのものより高いような梱包材ね、失敗するに決まってるんですよ！

夏目
クオリティ上げるのにハンドメイドってことになったんだから仕方ないだろ。

前田兄
じゃ出してくださいよ金。金出してください。工面してください。

夏目
そんなお前…、

前田兄
ほら夏目さん、金。金金。

夏目
お前…お前なんだよ！俺は邪魔者かよ。のけ者かよ！

茅ヶ崎
もうよしなよ前田くん。

前田兄
だってこの人途中入りでえぱり散らして文句しか言わないんですもん。

茅ヶ崎
それが夏目さんのいいところなんだから。ねえ夏目さん。

前田兄
じゃ俺夏目さんのいいところ嫌いですね完全に。

夏目
…じゃあお前考えてんのかよ？ お前はなんかやってんのかよ！？

前田兄
…やってませんよ。

夏目
ほらやってねえんじゃねえかよ、お前もよ！

前田兄
けどね、俺は社長ともう一回リング栽培始めるのを楽しみにしてんですよ。俺だってしますよリングのこと考えてニヤニヤ。夏目さんそういうメデイーションないでしょ？ リングを楽しみにするニヤニヤな気持ち、もうないんですよ？

夏目
だから楽しみにしてもダメだって言ってるんだよ。

前田兄
（泣いて）じゃ何か名案あんのかよ！？

茅ヶ崎
いいよ前田くん！ もういい。サンキューありがとね。食べてカップラーメン。のびちゃうとそれまズいから。ね。

前田兄
（泣いて頷いてる）

夏目
泣くなよなあ。

茅ヶ崎
夏目さんも泣いてる人に泣いてるって言わないの余計泣いちゃうから。

前田兄はカップ麺を泣きながらすすする。

茅ヶ崎
ありがとね前田くん。

前田兄
（泣きながら）文句言うなら帰ればいいのに。気持ちがないのにダラダラ

ダラダラ、後から入ってウダウダウダ…帰れ♪帰れ♪

夏目
…。

茅ヶ崎
…夏目さん、まだ諦めきれないんですわ。もう一回やりたいんですわリン

ゴ園。俺はどうしてもあの味を再現して売りたいんです。あの渋いリンゴをもう一回作りたい。いつ再開出来るかはわかりません。でも俺はここでしっかりとチャンスを待とうと思うんです。

夏目

だからしっかりと待ってもチャンスなんか来ないでしょ。

茅ヶ崎

しっかりと待ってるのに来ないチャンスなんかあるんですか！

夏目

いやこんなところでボンヤリ待ってたら絶対チャンスなんか来ないだろ！

茅ヶ崎

そうなの？

夏目

そうだろ。

茅ヶ崎

え？ ずうつとずうつとあの渋いリンゴのこと考えてても、それは降ってこないってこと？

夏目

降ってくる？

茅ヶ崎

いや、ずうつとね、ずうつと考えてたら、空からあの雪みたいにリンゴ降

夏目

ってくるみたいなのは無いってこと？

茅ヶ崎

ないだろ。

茅ヶ崎

でもずうつとずうつと梅干しのこと考えてたら酸っぱくなって口の中涎

夏目

が出てくるんだよ。

茅ヶ崎

ああ。そんで？

夏目

だからずうつとずうつと渋いリンゴのこと考えてたら、

夏目

渋いリンゴが降ってくるんだ。

茅ヶ崎

梅干しの原理でさ、だからずうつとずうつと考えてたら、

夏目

死んだ奥さんと子供も降ってくるんだ？

茅ヶ崎

……。

夏目

降ってくるんだ？

前田兄

ちょっと、

茅ヶ崎

それは…、

夏目

……。

茅ヶ崎

無理だろな。

沈黙。豊蜜が寝返りを打ち咳き込む。

いきなり前田兄が夏目の肩をドンと押す。

夏目

お前何すんだよ！ 暴力！

前田兄

何であんたはそうやってすぐその話を持ち出すんだよ後入りが！ 自

分が同じ立場だったらどんな気持ちすんだよ！ そもそもこんなメタボ

な梱包材で会社ダメにした張本人が嫌なこと言うな！

夏目

お前そんな言うけどな、あんな渋いリンゴ作ってもどうしよもなかつ

たろ？

前田兄

でも渋いリンゴ作りたいていうのは最初から社長言ってたでしょ。

夏目

確かに最初は何だそりや面白えって思ってたよ！

前田兄

ほらなったんじゃん。なったんじゃん。

夏目

けどあんなに渋いなんて思ってもみなかったんだよ！

前田兄

渋いっていったらあんなもんでしよう！

茅ヶ崎

あんなもんじゃないやねえよ！

夏目

…え？

茅ヶ崎

俺の言ってる渋さはあんなもんじゃないやねえよ夏目さん。もっとこう舌が痺れるような、そう、もっとビリビリ痺れる味のリンゴなんだ。あんなに渋い内に入らねえよ。もっともっとビリビリ渋くて、もっともっといびつで、もっともっと粉っぽくてさあ、

前田兄

もっともっと粉っぽく…。(何故かメモる前田兄)

夏目

茅ヶ崎さんはさ、それを何処にどう売るつもりだったんだよ？

茅ヶ崎

全国津々浦々にまんべんなくだよ。「拳骨」はみんなに食べて貰いたいんだよ。

夏目

「拳骨」なんてリンゴ買わないよ。

前田兄

いやネーミングは凄くよかったですよ。

夏目

けど現にまるで売れなかったろ。売れましたか！？ あれでもっと渋かったら絶望的だぞ。

前田兄が夏目の肩をドンと押す。

夏目

だから何でドンって押すんだよ！痛いよ！

前田兄

やってみなきゃわかんないだろ！

夏目

やってみて売れなかったから言ってるんだろ！

前田兄

デブ梱包材だって一個も売れてないよ。

茅ヶ崎

いや、前田くん、そのパッキンは最高だったよ。リンゴを思う気持ちがこのスチロールの厚みに現れている。最高のパッキンだよ。そんじょそこのリンゴよりずっと高級品だよ。俺は嬉しかったくらいだ。リンゴ作れなくてもリンゴ包めるんだからさ。

前田兄

そうかもしれないですけど、

茅ヶ崎

それに、これに入れるリンゴを作らなきゃ、本気でそう思えたよ。

前田兄

じゃあ作りましょうよリンゴ！ もう一回「拳骨」作りましょうよ！

茅ヶ崎

おお前田くん！ それだよ！ そんなのが聞きたかったんだよ！

前田兄

見て下さいこれ！（と茅ヶ崎リンゴ園の看板を出す）

茅ヶ崎

まだあったのか！

前田兄

この気持ち盛り上がった時に、園長がまた立ち上がった時に出そうって

決めてたんです！

茅ヶ崎 おお園長と！ 園長と呼んでくれたな前田くん！

前田兄 久しぶりっす！

夏目 だからその前に借金はどうすんだよ借金はさあ！？ え？

前田兄は再び夏目を押そうとするが夏目はかわす。

茅ヶ崎 あ！ あ！ あ！

前田兄 何ですか？

茅ヶ崎 …腎臓売ろう。な。みんなで腎臓売って金作ろう。な？
夏目 バカ言うな。

前田兄 腎臓売ればいいんですか？

夏目 おいお前バカか。

前田兄 俺は内臓だって売る覚悟だ園長のタメなら！

夏目 俺はイヤだよそんなの！

茅ヶ崎 そんなん言ったら俺だってイヤさ！

前田兄 え？

前田兄 前田くん、マジでいいのか？

茅ヶ崎 え？

前田兄 腎臓、マジでいいのか？

前田兄 …弟のでもいいですか？

夏目 あいつ昼飯食いに行くって出掛けたまま逃げたつきりじゃねえか。

前田兄 (夏目睨む) あいつは逃げるような男じゃないですよ。

夏目 でも現に帰って来ないだろ？ 何日目だ？

茅ヶ崎 そんなことより前田くん、

前田兄 はい。

茅ヶ崎 マジで腎臓いいのか？

前田兄 …。

と激しく戸を叩く音。

思わず戸を振り返る3人。しかし茅ヶ崎と夏目は再び前田兄に視線を戻す。

前田兄 …きつと涼ちゃんですよ。

前田兄は戸に出ようとする。戸は激しく鳴ってる。

茅ヶ崎 前田くんラーメンもうビロビロだぞ。

前田兄 あ、よかったら食べちゃっていいですよ。
茅ヶ崎 俺が欲しいのは腎臓なんだよね。
前田兄 こんばんは。

涼が包みを持って飛び込むように入ってきて戸を閉める。

前田兄 どしたの？
涼 鍵っこ閉めでもらっても構わねっすか？
前田兄 いいけど。

前田兄は鍵を閉める。涼はそうっと外の様子を伺う。

茅ヶ崎 どうしたの？
涼 …あ、あの豊兄ちゃんは？
前田兄 そこに寝てるよ。
涼 豊兄ちゃん！豊兄ちゃん！
前田兄 今朝から咳ひどいんだ。風邪だと思うよ。昨日寒かったし。
涼 ご迷惑ばっかりかげで。
前田兄 いや、よくやってくれてるよ。
夏目 そうでもないだろ。
涼 本当ごめんなさい。お礼っこ出来たらいいんですけども。
茅ヶ崎 あ、そしたら凄く欲しいものあるんだけどさ、いや、誰でも持ってるものだから安心して。
前田兄 それ気軽にねだるものじゃないですよ。
茅ヶ崎 だって重たく頼んだら断られるだろ。

と窓ガラスに石が投げ込まれる。

夏目 何だ！？

再び石が投げ込まれる。

夏目 ちょっと何なの？
涼 本当すいません。
前田兄 あ、園長血！
茅ヶ崎 え？
前田兄 血！

茅ヶ崎 え？（見て暫くして）あ、痛った！

茅ヶ崎は頭から流血してる。

前田兄 オイ（窓外に）こらあー！！ 園長血出してんぞこらあああ！

夏目 前田よせ！

前田 でも園長が！

涼 すいません！ あだすらの所為でこいなことに！

再び石投げられる。何か向こうで叫んでいる。

前田兄 何か叫んでますよ。

夏目 よし、表に出ろ。

前田兄 ちょっとどうするつもりですか？

夏目 おい！ バイト！ お前の妹だろ？ 起きて一緒に出る！

前田兄 何のつもりですか？

夏目 「あだすらの所為でこいなことに」って聞こえなかったのかお前？ ほら

前田兄 バイト起きろ！ お前らが出てきや一件落着なんだよ。

夏目 おい夏目！ 人でなし！

前田兄 年上を呼び捨てにすんな！

再び石投げられると、電球が割られてゆく。

夏目 うわ空気銃か！

茅ヶ崎 前田くんカマ持ってこいカマ！

夏目 カマ持ってこいじゃないでしょう。こいつら突き出せばいいことなんだからさあ。

前田兄 あれ組合の連中ですよ。

茅ヶ崎 組合！？ 農協か！

夏目 農協？ おい、それ持ってんのなんだ？

涼 これは……

夏目 ちょっと見せろ。

涼 んん。

夏目 いいからほら。

前田兄 はい園長これカマ。

夏目 おいよせ。

茅ヶ崎 来たなカマ！

夏目
やめろって！

茅ヶ崎はカマを片手に飛び出してゆく。

夏目
茅ヶ崎さん！

再び空気銃の銃弾が飛び交う。

前田兄

俺もカマ続きます！

夏目

続くな！

前田兄

だって團長一人にさせられないでしょ！

と立ち上がってカマ持って出ていく。

外で激しい喧騒。

夏目

おいおいどうなっちゃうんだよ。

涼

本当すいません！

夏目

おいバイト！ 妹なんかまずいもん持ってきて戦争だぞ！

空気銃による銃撃。ヒューズがやられたのか真っ暗に。

夏目

(涼に)とにかく説明しろ。

オープニングタイトル。

前田弟がトラックで雪山を走る。併せてタイトルと出演者。
前田弟は鼻歌を歌いながら上機嫌でトラックを運転している。

事務所の外。雪はまだ降っている。帽子を深々と被った蜜雄が転げるように逃げてきて、ドラム缶の影に隠れる。蜜雄の手には何やらバッグが。続いてカマを持った前田兄が警戒しながらやってくる。

前田兄
「こらあー何処からでもつかかってこいやあ！」

などと叫んでしばし一人でシャドウカマ振り。やがてやめて座る。とその蜜雄が隠れたまま声を掛ける。

蜜雄
おい。
前田兄
わあああ！

前田兄は声の方向にがむしゃらにカマを振る。しかし誰もいない。

前田兄
誰もいない！ うわああ！

前田兄は混乱する。

蜜雄
混乱すんな。
前田兄
うわあああ！
蜜雄
オメ前田だべ。俺だ。蜜雄だ！
前田兄
わああああ！

と顔を出した蜜雄に前田兄は襲いかかる。蜜雄はかわして前田兄をコケさす。

前田兄
わあああ！
蜜雄
やめろて！ 俺だ！ 蜜雄だ！ ほれ！

蜜雄は帽子取る。

前田兄
あ、佐藤くんとこの？ 蜜雄さん…？
蜜雄
んーだ。

何してんですかこんなところで。あ、もしかして蜜雄さんも組合の奴らに追われて…

蜜雄
涼よオメだずんとこ来ねがったが？
前田兄
来ましたよ。来たなり石投げ込まれましたよ。
蜜雄
まんずそいづはすまねがった。

前田兄 何の騒ぎですか？

蜜雄 中で涼は？

前田兄 中にいると思えますけど、何なんですかあれ一体、あんな大勢。

蜜雄 馬鹿豊蜜も中「ナガ」にいんのが？

前田兄 ええ。風邪で寝てますけど。

蜜雄 いい気なもんだないや。ほんでは、あいづらもいねくなつたみでだし、ちよっから中「ナガ」さ入れさせてもらうべ。

前田兄 ちよっと待って下さいよ。ウチは園長が流血して逆上して突撃したきり帰ってきてないんです。少しは説明してもらわないと。

蜜雄 ま、まんず中「ナガ」さ入ってがら。

前田兄 あの、ちよっといいですか？ さっきからこっちはそっちの質問に全部答えるんですよ。でも、そっちはこっちの質問に対して、一度もまともに答えないんですよ。ってか寧ろ質問しかえしちゃったりしてるんだ。これちよっどうなんだろ。そういう態度ってどうなんだろ。

蜜雄 中「ナガ」さ入ったら答えられることには答えるって言ってんだからいいべ。

前田兄 ほら。何だその態度。

蜜雄 何だ余所モンが。オメこの土地でたかが数年の新参が俺に説教さ垂れんのが？

前田兄 説教じゃないですよ。違和感と不満ですね。

蜜雄は当てつけるような溜息をつき、バッグ持って中に行こうとする。

前田兄 ちよっと無視？ 無視ですか？ あれ？ これ何？ これ何持ってんで

す？

蜜雄 触んな！

と蜜雄は前田兄を突き飛ばして行こうとする。前田兄は起きあがり「これ何だろう？ これ何ですか？」と聞きながらまたまとわりつく。それをまた蜜雄が突き飛ばす。また繰り返す。またまた繰り返しそうになった時、蜜雄が乱暴に倒してカマを奪い前田兄を掴んで喉元に当てる。前田兄は息を飲む。蜜雄はカマを放って、

蜜雄 オメうっとおしいぞ。(オメこしずねえぞ。)

と言って去っていく。前田兄は泣き出す。

前田兄

(ズボン触って) あ。

事務所の中。夏目と豊蜜が、涼の持ってきた包みの中を見ているところに蜜雄が入ってくる。

夏目

あ。

豊蜜

兄ちゃん…、

そのまま入ってきた蜜雄は涼のところに行き、涼をひっぱたく。

豊蜜

兄ちゃん！

と止めに入った豊蜜も突き倒す。

夏目

ちょっと何してんだよ！

蜜雄

オメだべ涼？

涼

え？

蜜雄

オメがあいづらに報せたのが？

涼

違う。

蜜雄

んたらどいづだ？

涼

…。

蜜雄

あの満寿夫どがいうヤツが？

涼

…。

蜜雄

(溜息ついて) まんず、はあ、まんまとしてやられたないや。

豊蜜

(咳き込みながら中のもを手にとって) まだこいな薬使って…、こいづ

もあいつも取締法で禁ずられでる農薬(のうやぐ) ばっがでねが。まだこいなもの使ってるのが兄ちゃんは。

蜜雄

オメに関係ねえべ。

豊蜜

こりや組合も怒(おこ)るわ。…こいなものばっがし使うもんで、ウチの

蜜雄

野菜は薬臭くてわがんね。

豊蜜

オメが余計なこと言うな。

蜜雄

親父と同じ間違(まちが)い繰り返す気が！

豊蜜

ウチを出だオメに何わかる!? 食えだもんでねえ渋リンゴ作(づぐ)りに手えかしやがって！

蜜雄

薬つけの野菜に比べたらずーっといいべ。

涼

やめでけるっちゃ。アダスが悪いの。

蜜雄

んだオメが悪い！

蜜雄

んだオメが悪い！

と涼を殴って、

豊蜜

兄ちゃんやめろ！

蜜雄

オメが何処の馬の骨だがわがんねブヨブヨの東京モンなんか倉庫に連れ込むがらこいなごとになったんでねが！

豊蜜

連れ込んだって？ え？ 涼オメだって前田さんどこの愛さんと付き合ってたでねえが。

夏目

え？ そうなの？ この子あの金髪と付き合ってたの？

豊蜜

え？ 夏目さん知らねがったすか？

夏目

じゃちよくちよく来てたのに最近めつきり顔出さなかったのはあいつがいなくなっちゃったから？

豊蜜

(ふ) んです。

夏目

え？ それであいついなくなってからもう彼氏出来ちゃったの？ 見た目のイメージと違いすぎる！

蜜雄

べっこ優しぐされだらひよいひよい付いでいきやがってよ。

夏目

土地柄がそうなの？ 寒いからなのどうなの？

豊蜜

今その話してる時(とき)ですかね？

夏目

え？ だってこういう話久しぶりで楽しいよ。

蜜雄

帰るぞ涼。

涼

はい。

蜜雄は農薬などの荷物まとめる。

豊蜜

そいづは置いてげよ。

蜜雄

なして？

豊蜜

そんなもん使ってたら本当に農園も何(なん)もかも滅茶苦茶になるぞ。

蜜雄

オメはウチの農園がどんだげ広いがわがってんのが？

豊蜜

…。

蜜雄

あれだけの土地でな、薬撒がねでなんじよして一年乗り越せるっつのや？

豊蜜

…。

蜜雄

豊蜜、オメ親父がどんだげ借金残(のこ)して死(す)んだか知ってるの
が？

豊蜜

…借金あんのが？

蜜雄

農薬(のうやぐ)やめろ農薬やめろって正義面する前にな、本当に農園守る
ごと考えでみろっこの馬鹿豊蜜(ばがとよみづ)が。

豊蜜

んだらまだ涼みでぐ片目(かだめ)っこ見えねえ子供出来(でき)でもいい

のが？

…。

涼の片目(かだめ)っ「見えねぐなったのは親父(おやず)の撒いだ農葉(のうやぐ)の所為でねがったのが？」

アダスは何(なぬ)も気にすてねえがら。

オメは黙ってろっちゃ。

…え？ その子って片目見えてないの。

兄ちゃんも怒(おこ)ってだでねえが！

俺は子供作る気ねえっちゃ(や)。

ああ〜そうですけ！ へえ！ そんな兄ちゃんのごだ、知ったこちゃねえっっちゃや！ んじゃ俺のごどは！？ 涼のごどは！？

そらオメたちが勝手に決めるごどだべ。

んだな。んじゃ周りには！？ 迷惑かけでるべっっちゃ！

…周りのごどは知らね。

…。

(拍手して) よっ！

(無視して) 行くぞ涼。満寿夫呼び出してボコボコにすっからオメ責任持つて手貸せよ。

…うん。

夏目は蜜雄のカバンをがっちりと掴んだまま。

いい！

(鞆を) かえしてけらいん？

いやいやメチャメチャカッコいいです今の話。いやカッコ良かった。お兄さんカッコいい。俺こっち来てから今一番感動した。東北格好いい。ヒュ！。

…このふざげたおんちゃんは？

夏目さん。

夏目のおんちゃん、かえしてけらいん？

ただそのままカッコよく帰らせるわけにもいかないですよ。これ見てくださいよ事務所。メチャメチャ。これちよっと弁償してもらわないと困りますよ。だって何にも関係ないのに被害被ってるわけだから。そうでしょ？

それは、僕(ぼく)がこごさいだもんだがら涼が来て、

だっってお前バイトじゃん。バイトくんじゃん。バイト関係ないじゃん。

夏目さん、今ウチにも借金あるって話(はなす)だったんだけども、聞い

蜜雄

豊蜜

涼

豊蜜

夏目

豊蜜

蜜雄

豊蜜

蜜雄

豊蜜

蜜雄

豊蜜

夏目

蜜雄

涼

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

豊蜜

蜜雄

夏目

豊蜜

夏目

豊蜜

ですたよね？

夏目 うんうん。よかったよ。家族のね。ぐっときたよ。でもそれとこれとは話が違うから。お兄さん、これは大人として当然だよね？

蜜雄 なんぼ？

豊蜜 兄ちゃん！

蜜雄 なんぼ？

夏目 三百万。

豊蜜 は？

夏目 そこを二百万。

豊蜜 え？

蜜雄 ふざげでんのが？

夏目 これって取締法に違反しちゃってんだよね？ 言っちゃうと困るかなと思っ

豊蜜 え、脅迫（きょうはく）？ これ脅迫（きょうはく）？

夏目 バイト、これうまくしたら、またあの渋リンゴ作れっかもしれねえぞ。

豊蜜 それももう喜んでいいのがわりのが。

夏目 どうしますお兄さん。大事に持ってきたとこ見ると、それはまだ組合には見つ

と前田兄お尻を押さえたまま入って来ていて。

前田兄 冴えてる！

豊蜜 前田さん。

前田兄 冴えてる！ 冴えてんじゃないか夏目さん！

夏目 おお前田！ さっきまでの自分が嘘みたいに頭がグルグル回転するんだよ。冴えてんだあ。今年一番冴え渡ってんだあ俺！

前田兄 （唐突に蜜雄に）おいデブ！

豊蜜 デブ？

前田兄 （カマ構えて）二百万と事務所の弁償代、耳揃えて払って頂きましょうか。

夏目 弁償金ナイス前田！

前田兄 佐藤くん入り口ふさいで！ このデブ質問答えずに出ていく可能性高いから！

豊蜜 いや、僕一応あつちの身内（みうち）なんですよ。

夏目 おいバイト！ お前バイト先と兄妹とどっちが大事なんだよ！

豊蜜 普通は兄妹でしょ。

前田兄 出たよ普通！

夏目 だからお前はいつまで経ってもバイトなんだよ！

涼 アダスじゃダメですか？

夏目 お！？

涼 ウチ、とでもせいなお金（がね）ないんで、アダスで払ってダメですか？

豊蜜 涼！ オメ何言ってるんだ！

涼 アダス何でもすますから。

夏目 おお！

前田兄 いやいやいや、涼ちゃん、涼ちゃんはだってウチの弟の、愛の彼女じゃん？

だからこつち側に來てて。ね。こんな話に巻き込まれなくていいから。

いや、前田、その片目ちゃんもう新しい彼氏出來てんぞ。

夏目 え？ 彼氏？ 新しい彼氏？

夏目 その新彼に裏切られて、組合に農薬のことバレちゃったんだもんねえ片目

ちゃん。

前田兄 え？ 涼ちゃんそれはないでしょ？

涼 彼氏ってほどでもねんだげども。ま、ボーイフレンドみてえな。

前田兄 だってだって愛のヤツが帰って來なかつたらお兄さんもいいなってこの

間言ってたじゃん。

夏目 お尻軽いの？

涼 あの時（どき）はあの時で、まあせいなこともありがなって。

前田兄 俺は真剣に考えちゃってたよ！ オメーあれか！ その尻はあれか！

夏目 尻軽。

前田兄 尻軽か！ さっきのなし！ 來るな！ こつち來るなあ！ 可哀想によ

愛の奴、ちよつと留守してる間によお！

夏目 いや、お前もギリギリアウトだろ。

前田兄 え？ それで何、その片目ちゃんっていうのはどういうことなの？ どう

して片目ちゃんという呼び名を受け入れちゃっている様子なの？

どうしてってこともねえんですけど、こつち見えでなくで。

前田兄 全然知らなかったよ！ 全然そんな風に見えないからさ！ 障害上手に

隠してんじやねえよ！ あーあ、可哀想によう愛の奴、ちよつと留守して

る間によお！

涼 だっていなくなっちゃって電話もないがら！

前田兄 いなくなつて一週間くらいだろまだ！ 障害者！ 一週間ほっちも待て

ないのかチンバが！ それに俺ともこの一週間わりと電話してたたる頻

繁に！ 裏切り者！ 片目ちゃん！

豊蜜 片目（かだめ）だ障害だつて言つなつこのく！

と豊蜜が掴みかかるのを前田兄はカマで払って、

前田兄

よしじや障害者、お前が払え！ 片目ちゃんが払え！ 腎臓で払え！ っつて
オイ！ 何であんた座つてくつろいでんだよ片目ちゃんのお兄さんよ！

と確かに座つて話を聞いていない蜜雄。

蜜雄

話（はなす）終わつた？

前田兄

出たよ質問返し。

蜜雄

終わつたのがどうか聞いてんだげつどもな？

夏目

いや佐藤さんあのね、真面目な話、こつちも切羽詰まつてるんですよ。

蜜雄

んだつてそんな金ねえもん。

夏目

それじゃ困るんですよ。

涼

んだからアダスが。

前田兄

そう。片目の腎臓な。

涼

じゃ腎臓で。

豊蜜

涼！

涼

んだつて、

蜜雄

馬鹿（ばが）涼がアホなこと抜がすな。

と蜜雄は財布出す。

夏目・前田兄

おおつ。

豊蜜

兄ちゃん払うのが？

蜜雄

（事務所見回して）五万あれば足りるべが？

夏目

五万…。

前田兄

え？何迷つてんですか？ ダメでしょ？

夏目

だつてお前、ちよつとこつちこい。

前田兄

何ですか？

夏目

だつて二百万つはさすがにリアリティねえだろ。

前田兄

五万じゃ弁償代にもならないでしょう。

夏目

もし今奴に二百万払うつて言わせたとしても、今の時点であの財布の中に

前田兄

入ってる金だけでも頂いとかなきや実際そんな大金いつ払つて貰えるか

夏目

わかんないわけだからさ。

前田兄

脅迫つてそういうことじゃないでしょ？ 金ない人からでも冷酷に用意

夏目

させるくらい勢いなきや出来ないもんなんじゃないの？

前田兄

でも逃げられるとかさ。

前田兄

そこは人質でしょ？ 人質取ればいいんじゃないの？

夏目 そんなんしたら逆にこっちが捕まっちゃうだろ。
前田兄 何？ そいう覚悟なしに言ってるんのか？ 夏目さんの園長とリンゴ作る
うって気持ちはそんなもんなのか？
夏目 犯罪してまで作ることないだろ。うりんゴは。
前田兄 出たよ夏目ひよってる。
夏目 お前呼び捨てやめろな。
前田兄 じゃあお前もお前って言うな。
夏目 お前も俺をお前って呼んでるぞ。
前田兄 お前が俺をお前って呼ぶ間はな。
夏目 お前何涙目になってんの？
前田兄 なってねえよ。
夏目 なってんだろ。あ、あれだ。ふられちゃったからだ。
前田兄 ふられてねんだよ。ちよっとお前来いや。
夏目 何だやんのか？

と地味にヌルヌルつかみ合いながらトイレに入っていく。

豊蜜 兄ちゃん、その五万払って、この機会に農薬（のうやぐ）やめっぺ。
蜜雄 オメは俺の話（はなす）聞いてねがったのが？
豊蜜 そいづさえ置いであつたらいいわけだが。脅迫（きょうはく）もされねえべ。
蜜雄 俺に意見（いげん）すんな。
豊蜜 俺にも意見（いげん）はある。
涼 あの、
豊蜜 何？
涼 今チャンスでねのが？
蜜雄 （揉めてる様子見て）そうするべが。
蜜雄 （バッグ掴んで）こいづは置いてげ。
豊蜜 （バッグ引っ張って）バガ豊蜜が。
蜜雄 捨てだりしねえ。そいづはちゃんと話す合ってからだ。んでも今夜は、ど
つにすても持ってねえ方がいいんでねが？
涼 蜜雄（みづお）兄ちゃん、豊兄ちゃんの言う通りがもしれねえよ。
蜜雄 …捨てんなよ（なげんなよ）。
豊蜜 捨てねえよ（なげねえよ）。
蜜雄 …行くぞ涼。
涼 ん。

蜜雄と涼はすつと出ていく。

夏目と前田兄はまだトイレの中でもみ合っているのか、扉がごっごっ音を立てて揺れている。豊蜜はバッグの中から容器を出し、確認し始める。とそこに血を流した茅ヶ崎が片手に枝木を、片手に組合の男・満寿夫を後ろ手に縛ってやってくる。満寿夫は口を手拭いで塞がれている。

豊蜜 誰ですかそれ!?

茅ヶ崎 おお佐藤くん起きたか?

豊蜜 起きたかでねぐってそれ! その人!

茅ヶ崎 あ、こいつ? それより佐藤くん、

豊蜜 それよりじゃないですよ。それより大変なことないでしょう。

茅ヶ崎 いや、違うんだ。

豊蜜 それ誰ですか? 誘拐ですか?

茅ヶ崎 それでもいいんだけどさ、ちよっと前田くんいるかな?

豊蜜 そのトイレにいますよ。

茅ヶ崎 あ、そう。夏目さんは?

豊蜜 そのトイレです。

トイレがガタガタ揺れている。

茅ヶ崎 え? あの二人ってそうなの?

豊蜜 え? いやいや、違います。

茅ヶ崎 あ、連れションか。え? 一つの便器にクロスで?

豊蜜 喧嘩してんですよ。

茅ヶ崎 ちよっとこれ押さえてて。

豊蜜 ええ?

茅ヶ崎は満寿夫を豊蜜に預けてトイレに、

茅ヶ崎 前田くん! 夏目さん! 愛し合っているとこ悪いんだけどちよっと!

豊蜜 この人なんか唸ってますよ。

茅ヶ崎 前田くん! 夏目さん!

夏目が汗だくで息を切らせながら出てくる。

前田兄 (声) あ、おかえんなさい。

夏目 結論はほぼ出た。

茅ヶ崎 どんな結論?

前田兄
夏目
（声）この件に関しては夏目さんが正しい。五万円もらいます。だろ？

前田兄
はい。結局五万円も貰えないよりかは五万円だけでも貰った方がいいって
いう最初の案が一番現実的でした。

夏目
ま、わかってもらえてよかったよ。

前田兄
いや、それはこちらこそ。

前田兄は右手差し出す。夏目も右手差し出し固く握手。

茅ヶ崎
ん。何かわかんないけどよかったね。

夏目
とにかく五万だ。茅ヶ崎さん、五万ゲットですよ。

茅ヶ崎
そうか五万か。

前田兄
（満寿夫に）おい、五万でいいぞ。

夏目
（満寿夫に）五万、まずは、だぞ。まずは五万頂いておこう。

満寿夫
（うなる）

前田兄
…これはあれですね。

夏目
うん。これは違う。人違い。（落ち着いて見回して、トイレも覗いて）いな
い！ 五万がない！

前田兄
佐藤くん五万は？ 五万とそれに、腎臓は、片目のクランケ何処いった
の？

豊蜜
あの、逃げました。

夏目
逃げたあ？

前田兄
何やってんだよバイト？ お前バイトが何やってんだよ！

豊蜜
すいません隙を突かれて、でもそれよりこれ（満寿夫）…、

前田兄
そんなことより五万が先だろ！

豊蜜
いや絶対こっちが先（さぎ）でしょう！

前田兄
行きましよう夏目さん。

夏目
おう。

茅ヶ崎
いや、前田くん、夏目さんちよつと待って。

前田兄
何ですか？ 五万とクランケに逃げられますよ。

茅ヶ崎
うん。その事情はさっぱりわからないけどちよつと待ちなさい。

夏目
どうしたのよ？

茅ヶ崎
給水場の裏手にさ、ひっそりこじんまりリンゴの木があったのね。

豊蜜
あ！ それ前田さんの……！

前田兄
しいっ。

豊蜜
あ…。

茅ヶ崎
やっぱり知ってたんだ。

前田兄

いや…、

夏目

何それ？ 土地売った時にリンゴは全部処分したんじゃないの？

豊蜜

それ、

前田兄

よせよ。

茅ヶ崎

言ってみてよ前田くん。水くさいじゃないか。

前田兄

いや、実は、恥ずかしいんですけど、

茅ヶ崎

うん。

前田兄

ちよっとだけ貯めてた金で、また渋いリンゴ作ってやろうと思って、

豊蜜

密かに育てでだんです前田さん。

前田兄

何で佐藤くんが言うんだよ！

茅ヶ崎

やっぱそっか。

豊蜜

それで冬場は毎日残（のこ）って雪どがしてって面倒見でだんです。

前田兄

どうして佐藤くんが言うのかなあ？

茅ヶ崎

（涙をこらえる）

前田兄

（それを見て）またリンゴ園始める時に何か取っ掛かりがあった方がいいと思って、俺なりに品種改良っていうか、コツコツコツコツ毎日毎日罵声を浴びせてるんです。ほら、植物って感じてるって言うでしょう。毎日罵倒し続けたら味ももっと渋くなるんじゃないかって。死ねだのバカだの腐れリンゴだのって、そしたら本当に少しづつ、少しづつなんですけど匂いが、いやあな匂いがしてきたような気がするんです。なんか酸っぱいような目が痛くなるような。微妙にですけど。

茅ヶ崎

前田くん…。

夏目

黙っててごめんな！

前田兄

あんたは何にもしてないでしょ？

夏目

冷たいこと言うなよ。

茅ヶ崎

いや前田くんも夏目さんも、

前田兄

この人は関係ないんですよ。

茅ヶ崎

ありがとう。本っ当にありがとう嬉しいよ。サンキュー。サンキューね。

前田兄

いえ。まだまだこんなものでは。

茅ヶ崎

よしじゃあ決定だな。

前田兄

何がですか？

茅ヶ崎は満寿夫を掴んで投げ倒す。

茅ヶ崎

こいつ（満寿夫）の内臓全部貰おう。な。

豊蜜

何言い出すんですか？

夏目

そいつ誰なの？

よ俺のその時の、ある、この有り余る戦争的パワーというか民族的エネルギーを何かにさ、んでもう蹴って蹴って蹴って蹴って、でもヤワな木なもんでさ、全然盛り上がった戦争的な気持ち収まんないしさ、小便かけちゃえらってなったら、そいつが蹴りつけてきてさ。バカじゃねえのってくらい興奮しちゃってて手に負えないっていうか。

他

夏目

あ！

豊蜜

何ですか？

夏目

この苗木の件は組合に弁償してもらえるんじゃない？ ちょっと電話してみ。

豊蜜

今この状況で電話すね方がいいんじゃないんですか？

夏目

バカこういうのは早いほうがいいんだよ。(と電話に)

豊蜜

弁償ばっかだなこの人は。

この時前田兄は表で折れた木を持って泣いている。

満寿夫

ねえ！（縛られた手だ出して）これもう手え痛いんだよね。これもうやめない？

豊蜜

オメなあ…

茅ヶ崎

お前組合のモンか？

満寿夫

違う違う。何で俺が組合なんか入るのよ。いやさ、何か親父にいい加減仕事しろって親戚の家にバイトで来させられて、でもやる気しないでしょ農業なんてさ、そしたら叔父さんが都会のテク使って農園の娘に近づけって言い出して。何か薬品を調べるとかだったんだけど、ま、その子もちょっとだけ可愛いし、実際こっちもほら、田舎暮らしでたまってくるわけだし、で、ちょっと優しくしたら、ころっとね。東北の女の子って男に飢えて…

茅ヶ崎が突然カマで襲いかかる。それを必死に止める豊蜜。

茅ヶ崎

殺す。内臓なんていりません。ただ殺す！

豊蜜

今のは社長がキレるとごじやないでしょ。

茅ヶ崎

君の妹がバカにされてんだぞ！ 寧ろ君がカマを振り下ろせ！

豊蜜

何にも解決しねえがら！ それに妹もちょっとそういう軽いどこあるんです！ だがら！ ね！ ちょっと考えましようよ！

茅ヶ崎

放せ！ 放せ佐藤くん！

豊蜜

ダメですよ！ リンゴ作（つぐ）れなぐなっちゃうから！

夏目

ちよっとうるさいよ！（電話を外に持っていく）で、ですねえ、

満寿夫 ああ！

茅ヶ崎・豊蜜 ！？

満寿夫 それ！ それでしょう！ そのバッグ農薬入ってるヤツでしょヤバイやつ！ やっぱあんたら仲間なんじゃん！ 石投げ込まれて当然じゃん！

豊蜜 あ！それは…

茅ヶ崎 そんなもんあるわけねえだろバカじゃないのこの四角い顔が！ なあ佐藤くん！？

豊蜜 いや、これ実は、あの、ま、その、

茅ヶ崎 違うんだよバカ！ 四角い顔！ 殺すぞ！ え？ これ農薬じゃないでしょ？

豊蜜 えーと、

満寿夫 ほらそうなんだよ！ やっぱそうなんじゃねえか嘘ついてんじゃねえぞ！

茅ヶ崎 嘘なんかついてねえよ！ これは絶対農薬ではない！ 違うよな。

豊蜜 あ、はい。

茅ヶ崎 ほら見ろ！

満寿夫 じゃ証拠見せてみろよ！

茅ヶ崎 ああいいともさ。

と茅ヶ崎はバッグ開けるとそこに薬品の缶が。

満寿夫 ほら見ろ！ やっぱそうじゃないか！

茅ヶ崎 これは、これは違う！ じゃ飲んでやる！ 飲んでやるぞ！

と茅ヶ崎は缶を開けてコップに入れて飲むとする。

豊蜜 社長（しやぢよう）！

茅ヶ崎 園長だ佐藤くん！（コップ内の緑の液体見つめてから）どーだ！

満寿夫 何がどーだだ！ 飲んでからどーだと言え！

豊蜜 やばいですよ、それ…。

茅ヶ崎 これ農薬じゃない？ 農薬っばいよね？

豊蜜 特上の農薬（のうやぐ）なんです。

茅ヶ崎 でもこれ飲まないと収拾つかないよね？

豊蜜 そんなことないと思いますけど。

茅ヶ崎 佐藤くん、園長の俺をなめるな。行くぞ！ 見とけ！ 行くぞ四角い顔！

茅ヶ崎は飲むとする。頑張って頑張って頑張る。指を入れて舐めようとする

る。しゃああ！と声を出し頑張って頑張るが…、結局コップを置いて、

茅ヶ崎 出来ねええええ！

満寿夫 ほら見ろ！ 嘘つくな！

茅ヶ崎 じゃあお前は舐められんのか！？ 舐めてみろよ！ 舐めてみろよ！

豊蜜 冗談でも舐めさせたら死ぬがもしないがら！

茅ヶ崎 手洗わなきゃ手！

夏目 (電話から戻って) 組合の奴ら雁首揃えて謝りに来いって言ったからすぐ

来るよ。弁償金取れると思うよこれ。こいつバカだから。

(笑って) バカはお前だよ。バカだな。

満寿夫

お前って言うな。

夏目 抜けてんだよお前ら！ どうりでくっせえリンゴの木だったもんなあ。

満寿夫 ちよっと待ってける何だ今の？

豊蜜 鈍くさいお前らじゃ、ああんなくっせえリンゴの木しか作れないですね。

満寿夫 オメ、前田さんがどんだけ頑張って臭(くせ)ぐさせだが考えだことあんのが。

豊蜜 何でそんなもん考えなきゃなんないんだよ。

満寿夫

と茅ヶ崎がカマで満寿夫を突然襲おうとしたのを豊蜜が止め、そのカマを奪つて満寿夫を刺す。

夏目 …お前何やっちゃってんだよ？

豊蜜 …(我に帰って) ああ！

茅ヶ崎 ああ！

満寿夫 …あああああああ！ 刺したあああああ！

豊蜜 (急に咳き込んで苦しそうに) ぶり返してきた。

満寿夫 これどうすんだよお！？

茅ヶ崎 とりあえずこれ飲んで落ち着いて。

と茅ヶ崎に渡されたコップを豊蜜は飲み干す。しかしそれは農薬。飲み干してから、

豊蜜 ああ、大丈夫です。(とコップを見て) …ああ！

茅ヶ崎 ！？ ああ！

満寿夫 あああああ！

夏目 何？

クラクション。
次の瞬間トラックが事務所に突っ込んでくる。
暗転。

荒れた事務所の中。トラックは事務所に顔だけ出している。事務所内には茅ヶ崎、夏目、血まみれの満寿夫、前田兄。前田弟は頭から若干血を流している。豊蜜はトイレで吐いているらしい。声が聞こえる。

前田兄

じゃあ愛は、そのトラックの中に積んでいる荷物を捨てればってことで、この百二十万とこのトラックを貰ったってことなんだ？

前田弟

(頷く)

前田兄

金ですよ。

夏目

ああ。

前田兄

これの積み荷捨てるだけで、これだけ。でしょ？

前田弟

(頷く)

前田兄

でもこれちよつと百二十万じゃないよね？ 百八万だよな？

前田弟

(頷く)

前田兄

これ一二万どうしちゃったの愛は？

前田弟

(小さく) 遣っちゃった。

前田兄

え？

前田弟

遣っちゃった。

夏目

なあこれ(満寿夫) どうすんだよ？

前田兄

ちよつと今俺が話してるんで。何に遣っちゃったのそんなに？

前田弟

キャバクラ行つてからソープも行っちゃった。

前田兄

キャバクラ行つてからソープも行っちゃった？

前田弟

(頷く)

前田兄

これソープとキャバクラで遣っちゃってますねこれ。

夏目

そんなことよりこれどーすんだよ！

前田兄

今そつちよりこつちでしょう？

夏目

どう考えてもこつちだろ！ 俺あれだぞ、組合呼びつけちゃってんだぞ！

前田兄

電話でとりあえずちよつと後にしてくださいって言えばいいんじゃない

夏目

んですか？

前田兄

電話これ(トラック) 突っ込んで来て切れちゃってんだよ。

前田兄

だったら途中まで夏目さんが出向いて行って「ごめんなさいもういいです」

夏目

でいいでしょう？

夏目

何で俺がそこまでしなきゃなんないんだよ。

前田兄

だって呼びつけたの夏目さんでしょう。

夏目

良かれと思って呼んだんだぞ俺は。

前田兄

じゃあ裏目に出ちゃいましたね。

夏目 お前つくづくむかつくな。

前田兄 え？ 園長、これは夏目さんが呼んだんだから夏目さんが責任取るべきですよね大人として。

茅ヶ崎 いや、どっちでもいいんだけどさ、

前田兄 え？ どっちでも良くはないでしょう。これは夏目でしょう。

夏目 お前さっき呼び捨てしないって誓ったろ。

茅ヶ崎 愛くん。

前田弟 あ、はい。

茅ヶ崎 愛くんはさ、これちゃんとブレーキ踏んでるわけなの？

前田弟 え？ 一応踏んだつもりではありますけど、

茅ヶ崎 踏んだつもりではありますけどって何？

前田弟 何って…、

茅ヶ崎 居眠りしちゃってたの？

前田弟 いえ…

茅ヶ崎 居眠りしちゃってたんでしょ？

前田弟 ちゃんと起きてました。

茅ヶ崎 え？

前田弟 起きてました。

前田兄 ちょっと今そんなのいいじゃないですか。

夏目 それよりこいつをどうするかだって話だろ？ ちょっとみんな見て。ねえ、

茅ヶ崎 これ、この人、血。ね。これは？ トラック。突っ込んでる。ね。おかし

いよ。普通じゃないよ今。

茅ヶ崎 今そういう話してんじゃないんだよ。

夏目 しようよ。そういう話しようよ。

前田兄 今そういう話してんじゃないって園長言っただろ。

夏目 あいつ死んじゃうぞ。

茅ヶ崎 (前田弟に) 酒飲んでんだろ？

前田弟 え？

茅ヶ崎 愛くん飲酒運転だろ？

前田弟 いや、ちゃんと寝て抜いてきましたけど。

茅ヶ崎 はあってしてみ。

前田兄 園長、

茅ヶ崎 ほらはあってしてみ！

前田兄 ちょっと園長マジでそういう上から物言われたりするの愛苦手なんだか

茅ヶ崎 ら。

茅ヶ崎 そんなの関係ねえんだよ。ほらハアってやって。やってみ。

前田兄 じゃあ俺がしますから。ハアー！

茅ヶ崎

お前関係ないだろ。ほらハア。ハアってしろハアって！

夏目

もうよせよバカバカしい。それどころじゃないんだし！

茅ヶ崎

(夏目の手を乱暴に払って) バカバカしくなんかありませんよ！ これもう後一步でみんな死ぬかもしれないんですよ！ 何の罪もない、この男

(満寿夫) とか、夏目さんとか僕とかが！

満寿夫

じゃあ何で刺したりするんだよ！ そんなんより病院連れてけよ！

前田兄

お前は自業自得だろ？

満寿夫

自業自得じゃねえだろ！ こんなん犯罪だぞ！

夏目

そうだよ。

前田兄

お前だって俺が大事に育てた拳骨2世をなぎ倒してくれちゃって、しかも愛の彼女寝取ってんじゃねえかよ。

前田弟

え？

前田兄

お前涼ちゃんこいつに寝取られてるから。

前田弟

マジで？

前田兄

(ちよつと泣いて) しかも涼ちゃんも涼ちゃん片目見えないのお前に黙ってたから。

前田弟

片目見えないの涼…。え？ 何で兄貴が泣いてるの？

茅ヶ崎は満寿夫を殴りつけて、

夏目

あゝあ！

茅ヶ崎

余計な話してんなよ愛くん。俺の質問に答えてくれないと。

前田弟

だから飲んでないですって。

茅ヶ崎

じゃあ何で事故っちゃうんだよ免許持ってんだろ？

前田弟

慣れないトラック雪道で運転したからですよ。

茅ヶ崎

よし。じゃあチェックするぞ飲酒チェックするぞ。(と検査の器具を出して)

前田兄

よしハアしろハア。

前田兄

ちよつといい加減にしてくださいよ。

茅ヶ崎

ほらハア！ ハア！

前田弟が茅ヶ崎を突き飛ばす。

前田弟

何なんだよ！ 飲んでないのに！ スリップだよ！ スリップ！(泣いて

る

前田兄 (泣いてる) 泣くなよ。

前田弟 (泣いてる) 泣いてねえよ。

夏目 兄弟揃って泣いてんなよ。

茅ヶ崎 …ウチの美沙子と夕紀は酔っぱらいに殺されたんだ。

夏目 …酔っぱらいって、犯人捕まってるんでしょ？

茅ヶ崎 酔っぱらいに決まってる。

夏目 何で？

茅ヶ崎 美沙子はびっくりするくらい美人なんですよ。どんな寝坊助ドライバーだ
って目え覚ましますよ。

間。

夏目 でもそれは証拠には…、

茅ヶ崎 なりますよ。

夏目 …。

茅ヶ崎 なります。

他 …。

前田弟 すいません。

他 …。

前田弟 ちょっとだけ酒入ってました。

前田兄 お前！

前田弟 でもスリッパはスリッパなんです。

茅ヶ崎 愛くん。

前田弟 はい。

茅ヶ崎 マジでスリッパ？

前田弟 マジスリッパっす。

茅ヶ崎 …今度飲酒運転したら殺すぞ。

前田弟 …はい。

茅ヶ崎 取り返しなんかき、つかねえんだからさ。

前田弟 はい。

茅ヶ崎は前田弟を抱きしめる。

茅ヶ崎 (抱き合ったまま) ごめんなムキになってハアハア言って。

前田弟 (抱き合ったまま) いや俺も悪かったです。

前田兄 良かった！ これ寧ろ良かったじゃん！ 前進だよ前進！

夏目 よしじゃあこいつどうするか考えよう。ほらもう茅ヶ崎さんが殴るから折

角目覚めたのに気絶しちゃってるよ。

前田兄 ねえ、ねえ！ 夏目さんさ、

夏目 何だよ？

前田兄 今こっち感動してんだろ？

夏目 は？

前田兄 今、こっち、感動してんだろ？

夏目 …。

夏目は前田兄の肩を押す。

前田兄 何？

もう一度夏目押す。

前田兄 ちよっと何これ？ 何してんの？

と前田兄も夏目の胸ぐら掴み、また揉める。前田弟と茅ヶ崎が間に入る。

茅ヶ崎 ちよっとちよっと！ やめなさいよ二人とも！ 夏目さん、夏目さん！！

茅ヶ崎は夏目を引きはがす。その茅ヶ崎を夏目が振り払って。

前田兄 これぶりっていつちゃったよ！ バカじゃないの？バカ？

夏目 だってこれどうすんだよ！？ こんなんこれで組合来てさ、警察来てさ、全部終わりじゃんかよ！ それでいいのかよ！ え？ それでもう終わりでいいのかよ！？

前田兄 だから組合止めてトラックの中味片付ければいいんだろ！？ 何でそれ

がわかんねえんだよ？

夏目 こいつが死んだらそんなの全部ダメになるに決まってるだろうが！

満寿夫 まだ死んでねえよ！

茅ヶ崎 君は黙ってる！ 君に発言権はない！

前田弟 捨てちゃいましょうよ。

他 …。

前田弟 そいつ捨てちゃいましょうよトラックの中味と一緒に。

夏目 お前…、

前田兄 賢いなあ愛は。

夏目 はあ？

前田兄 それいいよ。だってそしたら組合にはバレないし、どうせトラックの中味捨てるんだつたら特別手間にもなんないわけだから。ね？ そっしよつ。それ名案ですよ園長。

満寿夫 ちよつと待って…、
前田兄 ね？

満寿夫 まだ死んでねえんだぞ！
前田兄 直に死ぬだろその怪我じゃ。

満寿夫 病院に！ 誰にもこのこと言わねえから病院に！
前田弟 人の女寝取っっておいて今更ガタガタ言っなよ。

満寿夫 ワル？ ワルなの！？
夏目 本気で言ってんのか？

前田兄 そんなで改めてこの金でリング作りましようよ。「拳骨二世」はダメになっちゃったけど、まだまだ他にもアイデアあるから。

前田弟 あ、兄貴前から言っってた拳骨ロワイヤルでしょ？
夏目 冗談だろ？

満寿夫 ちよつと勘弁してくれよ！ なああんた！ 止めてくれよ！
夏目 見つかったら全員捕まるぞ。

前田兄 捕まったら責任は俺が被りますよ。俺の所為にしています。
茅ヶ崎 前田くん…、

夏目 お前何でそこまですんだよ？
前田兄 じゃ何で夏目さんもいつまでもここにいますか？

夏目 …俺が聞いてんだろ。
茅ヶ崎 夏目さんと同じだよ。

夏目 え？
茅ヶ崎 ある日急に手伝いたいって訪ねて来てくれたんだよ。

夏目 何で？
前田兄 …愛がね、話してくれたんだよ。たまたま病院で見掛けたっつてね。

夏目 何を？
前田兄 愛がさ、あ、こいつ性病でさ、こいつ当時彼女に振られちゃって、それから風俗はまっちゃってたんだけど。な？

前田弟 今も好きだよ。
夏目 それはいいよ。

前田兄 でな、ある晩すんこいやばい小便出ちゃってな、
前田弟 あれびびったー。

前田兄 もうね、有り得ない色とトロミとな、
夏目 だからそれはいいよ。そんな説明しないで。

て苦くて旨いリンゴなんて食いたいしみんなに食って欲しいもんで、愛のバイトやめさせて、借りられるだけ金借りてこっちに。な。俺も振られちゃったしもういいやと思って。

(目頭押さえて) あく久々に話したけどやっぱ泣いた。本当、俺どこまでもついでいきますから。

ああ。

じゃあそろそろ捨てに行く？

行くか。

わああああ〜！

と満寿夫が渾身の力を振り絞って表に駆け出す。

前田弟

あ！

前田兄

おいちよつと待て！

満寿夫

キチガイどもめ！（と兄を振り払い）

前田兄

ぐあ！

前田弟

殺す。

前田兄

うん。

と前田兄と前田弟が追っていく。沈黙。

夏目

…今の話…、

茅ヶ崎

まあ、

夏目

…。

茅ヶ崎

そんなとこだったかな。(と煙草に火をつける)

夏目

…。

茅ヶ崎

食べてみたいんですよまた、あの味。

夏目

味じゃないんじゃないの？

茅ヶ崎

…いや、味だよ。懐かしい味がするんだよ。きっと。

夏目

…。

茅ヶ崎

夏目さんは何でここに？

夏目

…俺は、

茅ヶ崎

うん。

と、目、鼻、口、耳から血を流した豊蜜がトイレから出てくる。

夏目

…おい、それ…、

豊蜜

茅ヶ崎

咳（せき）は収まったんだけども。何か次から次に出てくるんですよ。何
が出でてくるんですかねこれね？
うん。

そこに蜜雄が逃げ込んでくる。

蜜雄

あいづら家まで張り込んでで、べっこ様子っこ見たら帰（け）っから…何
じゃあこのトラック！

夏目

いや、

蜜雄

こいつはどいな運転するどこうなるの？

夏目

あの、

蜜雄

あゝこのチェーンじゃ走れねよ。

夏目

それより、

蜜雄

言われなくてもすぐ帰（け）っから。

夏目

そうじゃなくてあっち。

蜜雄

何？

豊蜜

兄ちゃん？

蜜雄

バガ豊蜜（とよみづ）が。これなしてこんなチェーンつげさせだ？

豊蜜

どれ？

蜜雄

これ。

豊蜜

どれ？

蜜雄

んだがら（見て）……………これ…

豊蜜は膝をつく。呆然と見る蜜雄。

場面変わって外。満寿夫が逃げてくるが怪我のため倒れ込む。そこに前田弟
が追ってくる。

前田弟

兄貴！ こっち！ こっちいたよ兄貴！

返事はない。前田弟は満寿夫の方にやってくる。逃げる満寿夫。しかし前田
弟が行く手を阻む。

満寿夫

勘弁しろよ！

前田弟

もういいじゃん。どっちにしてもやばそうなんだから。

満寿夫

やだよ！ 救急車呼べよ！

前田弟

スリップしちゃうもん。

満寿夫

しねーよ地元の救急車は！

と物音が。

前田弟 誰？

満寿夫 知らねえよ。

前田弟 キタキツネ？

満寿夫 ここ北海道じゃないから。

前田弟 俺あのドラマ好き。あれほら有名な歌どんなだっけ？

満寿夫 え？

前田弟 ほらあれ。

満寿夫 …（歌う）♪あーあーああああー♪

前田弟 そんな歌じゃないよ。

満寿夫 いや、これしかないし歌じゃないしね！

前田弟 キタキツネって食べれるの知ってる？

満寿夫 知らねえよ。

前田弟 だって食べれないもん。

満寿夫 何なんだお前！

前田弟 （呼び寄せるように）るーるるるる。

満寿夫 なあ、見逃してくれよ。大体お前いなかったろ？ 俺が何したか知らない

わけだろ？ それにあれじゃん。刺した時いなかったんだし、今なら無関

係で押し通せるじゃん。

前田弟 ちよつと来なくなっちゃうでしょ。

満寿夫 寒い。寒くなってきた。

前田弟 るーるるるるるる。

前田弟 なあ寒いよ。死ぬかも。死ぬかもよこれ。

と木陰から涼が現れる。

前田弟 …。

満寿夫 あ！ 救急車呼んで！ 警察でもいいから！

前田弟 涼…。

涼 何してんのっしや？

前田弟 …。

涼 何してんのっしや？

前田弟 お前浮気したろ！

涼 え？

前田弟 聞いたんだぞ！ 浮気したろ！ しかもこいつと。こんな奴と。

涼　この人何したの、この怪我？
前田弟　ほら！　心配なんかしちゃってさ！　好きなんだこいつが。もうこいつが
好きになっちゃったんだ。
満寿夫　そうだよ決まってんだろ。なあ涼？　ほら急いで誰か助け呼んで。
前田弟　やったの？　こいつと？
満寿夫　やったに決まってんだろ！　ああ、もう早く助けをさ！
前田弟　何でそんなことすんだよ！　俺と付き合ってるのに！
涼　んだって出でっちゃって連絡（れんらく）来ねがら！
前田弟　たった一週間だろ？
涼　連絡（れんらく）なきや一週間なのが一五年なのがわかんねっちゃ。
前田弟　でも一週間で帰ってきたのに。
涼　電話もよごさないで。
前田弟　だって電話番号忘れちゃったんだもん。
涼　携帯に入ってるでしょ。
前田弟　携帯充電器忘れちゃったんだもん。
涼　何処（どこ）さ行つてだよ。
前田弟　仕事探し。
涼　そいなご言つてどうせ風俗でしょ。
前田弟　…。
涼　ほら黙って。バガ正直。なしてアダスがいるのに風俗行くのよ。
前田弟　風俗とは言つてないだろ。
満寿夫　いやこいつさつき風俗行つたつて言つてたぞ。
涼　ほらほらほら！
前田弟　お前何で男同士のくせにそういうこと告げ口すんだよ。
満寿夫　何でこの状況の俺が寧ろ隠してあげなきゃなんないんだよ。
涼　なして風俗行くのよ。出でいく前も風俗入り浸（びだ）つてだの知ってる
んだから。
前田弟　だからそれは、
涼　なしてアダスがいるのに風俗行くのよ！
前田弟　振られた時に辛いから！
涼　…何よそれ？
満寿夫　何だそれ？
涼　何よそれ？
前田弟　だから…俺は、もし、振られた時に、理由とかないと、それはただ振られ
たみたいなこと？になるわけで、それは絶対に辛いから、事前に自分に振
られても当然だという部分を作ってたんだよ。これだよ。
満寿夫　はあ？

前田弟 だから風俗行つてたら、もし振られた時に、ああ俺は風俗行ってるからだ
つて納得出来るから風俗行つてんだよ。

涼 何よそれ？

満寿夫 じゃあ何で今浮気されて怒ってんだよ。

前田弟 浮気されたら怒るだろ。

満寿夫 でもそれはお前風俗なんか行ってるから浮気されるんだよ。

前田弟 ……あ！

満寿夫 バカじゃねえの？

前田弟 いやいやダメだそんなの！

満寿夫 何で？ すっげえ正しい答えじゃん。

前田弟 だって俺それだけで風俗行ってるわけじゃないから。

満寿夫 は？

前田弟 は？ じゃねえよバカ。俺は振られた時の為だけに行ってるわけじゃない
から風俗へは。振られた時の為だけに行ってたんだったら仕方ないかもし
れないけど、全然それだけじゃないから。

涼 んじやもつとダメだべっちゃ。

前田弟 何で？

満寿夫 どんなバカなの？

前田弟 ちよつと待て二人して俺ばつか標的にしやがって。涼、お前だって裏切っ
てんだろ。

涼 んだっていねくなるがら。

満寿夫 もうその話長くなりそうだから後にしてくれないかな。

前田弟 こいつの何処に惚れたわけ？

満寿夫 だからもう…、

涼 何処(どこ)とかないよ。

前田弟 何処とかないのかよ。

満寿夫 そういふもんだろ。

前田弟 じゃ俺にも何処とかないのかよ。浮気じゃないんだからさ、俺にはあるだ
ろ？

涼 ……ないよ。

前田弟 ないのかよ。

涼 ないよ。じゃアダスの何処(どこ)が好きなの？

前田弟 それは、敢えて言うなら、胸？

満寿夫 胸かよ。だって胸ないじゃん。

涼 あるある、あるべ、胸くらい。

満寿夫 あ、ない方がいいんだ。

前田弟 いやいや、ある方がいいよ。これはない方。ある方の胸が好きだよ俺は。

涼
んじゃあアダスじゃねえ方がいいってごどでねが。
だから何でそうなるんだよ！ お前の胸も好きっちゃ好きだよ！

そこに枝がぐっさり足に刺さった前田兄がやってくる。

前田兄
あ、いた。

前田弟
あ、兄貴。

前田兄
もう全然別のところ探しちゃってたよ。すっごい先のほうまで。

前田弟
呼んだんだよ大声で。

前田兄
もっともっと呼んでくれないとき。俺引き籠もり長かった分どんどん行っちゃうタイプなんだからさ。見てこれ枝。刺さっちゃったよこれ。

前田弟
ああ、ごめん。ごめんね。

前田兄
(涼見て) あれ？

涼
…。

前田兄
クランケ？ クランケじゃん！

涼
クランケじゃありません。

前田兄
よし愛、そいつも押さえる。そいつも俺たちの資金源だから。

前田弟
え？

前田兄
腎臓貰うことになってるんだから。

前田弟
そうなの？

涼
…し、知らね。

前田弟
知らないってさ。

前田兄
知らなくねえんだよ知ってたんだよ。し、知らねってコラ。涼ちゃんさっき
そう言ったら嘘つくな。

前田弟
そうなの？

涼
わがんね。

前田兄
さっきアダスで良ければ払いますって！ 腎臓出しますってさっき！

前田弟
でも知らないってよ。

前田兄
お前俺の言うことと浮気な片目ちゃんの話どっち信じるんだよ。

前田弟
そりゃ兄貴だけど、

前田兄
じゃあほら！

前田弟
でも知らないって言うてるわけだし、普通に考えてもそんなもの出すとか
出さないとかって話は、うん、リアリティない。うん。信じづらいよ。

前田兄
リアリティ目茶ありだよ。俺らだってその話ずうっとしてたんだぞ。

前田弟
飯にもその話をずうっとしてたとしたも、腎臓って内臓でしょ。残忍過ぎるよ。ついていけないよ。

前田兄・満寿夫
はあ？

満寿夫 じゃあ俺をゴミと一緒に捨てるとか言うな！

前田兄 いいから涼ちゃんじゃちよつとこっち。

涼 お兄さん、アダスに言い寄ったのよ！

前田兄 ……

前田弟 え？ え？ え？

涼 お兄さん、アダスに、言い寄った。

前田弟 ……マジで？

涼 マジで。

前田弟 マジで！？ 何してんだよ！？

前田兄 ……何言ってるんだよ。そんなことしてねえよ。

涼 した。したっっちゃ。電話してきた。テレフォン・セックスを強要してきたっっちゃ。

前田弟 (前田兄押しして) 何してんだっっちゃ弟の彼女に。

前田兄 してねえよっっちゃ。テレフォン・セックスなんかどうやって強要していいものかもわかんねえっっちゃ。

満寿夫 あ、訛りがうつつちゃってる・・・

涼 したべ。言葉巧みに、強要してきたべ。

前田兄 お前が誘惑してきたんだべ！

前田弟 そうなの？

涼 なして？ そいなごとしてないよ。

前田弟 こいつだけじゃないの？

涼 してないよ。アダスお兄さん誘惑なんかしてない。お兄さんが、お兄さんが強引に。

前田兄 手も触れてねえべ！

前田弟 当たり前だべ。テレフォン・セックスだべ！ もっと奥(おぐ)！ もっと

涼 と奥(おぐ)まで入り込んできたべ！

前田弟 もっと奥まで？

満寿夫 何かエロいべ。

前田兄 ……この女…

涼 なんだべ。深く入り込んで来たのよ奥(おぐ)まで！ こいな、こいなおどご(満寿夫)なんか比べものになんねえくらい激しく高く太ぐ、アダスを受話器口がら突き上げたのっしゅー！

あ、立ってきちゃったっしゅ。見てほら！ 俺立って来ちゃったっしゅ！

満寿夫

前田兄は怒りで涼に歩み寄る。涼は前田弟の背に隠れる。

前田弟

それ俺もやってみたいっしゅ。

涼 え？

前田弟 それどうやってやんの？ 俺もそれやってみたいっしや。

前田兄 ……やってみたいっしや？

前田弟 うん。

前田兄 じゃあそいつさっさと捨てて、その女から頂くもの頂いて、兄貴の受話器

つかませてやるうっしや。

前田弟 うん。それいいっしや。

満寿夫 ちよっと待て！

涼 冗談だ！ 冗談！ そいな電話出来（ぎ）るわけねえべっちゃ！

前田弟 じゃあとりあえずこいつ荷台に入れちゃってくるね。っちゃ。

前田弟は満寿夫を捕まえる。叫ぶ満寿夫。しかし前田弟はそのままトラックの方に連れていってしまふ。

前田兄 凄いな。

涼 え？

前田兄 凄い嘘つくね。

涼 ……

前田兄 やっぱあれだね。可愛い。

涼 え？

前田兄、涼に覆い被さる。が、止めて、

前田兄 何でもありません。

涼 ……

前田兄 あのさ、ちよっと聞いていい？

涼 はい。

前田兄 何で涼ちゃんはそんな簡単に男についてっちゃうの？

涼 え？

前田兄 何で？

涼 そんなでもねえです。

前田兄 そうか？ この一週間であの男と俺もでしょ。ま、俺はまだこれからだっ

たけど。

涼 ……

前田兄 何で？

涼 ……アダス自分嫌いだから。

前田兄 何で嫌いな？

涼 やっぱす目見えないし。田舎者だし。

前田兄

涼 愛さんいねぐなった時(どぎ)も、ああまだ捨てられたんだあって。よくあんです。アダスなんかやっぱ嫌なんだあって。

前田兄

涼 へへへ。

前田兄

気になんないよ多分誰も。

涼

え？

前田兄

気になんないよそんなの全然誰も。寧ろそう思いこんでフラフラするから捨てられるんじゃない？

涼

…。

前田兄

今俺すごくいいこと言ってるよ。

涼

…。

前田兄

もう一回言ってるいい今の？ …気になんないよそんなの全然誰も。田舎者だろうと片目の障害者だろうとペチャパイだろうと。寧ろそう思いこんでフラフラするから捨てられるんじゃない？

涼

帰りにね、

前田兄

…、

涼

さっき帰りにね、何でもするどが腎臓あげるって言ったこと凄く怒(おこ)られたんです蜜雄(みづお)兄ちゃんに。

前田兄

…。

涼

それ以上カダワになるような真似すんなくて。

前田兄

…。

涼

アダスはもうどっちでもいいんですけど。

前田兄

…(急に泣いて)馬鹿。

涼

え？

前田兄

お兄ちゃんのお気持ちわかってねえなあ。俺と同じこと言ってくれてんだよ。気にすんなくて言ってるんだよ。自暴自棄になんなくて言ってくれてんだろ

涼

馬鹿！ 馬鹿だ馬鹿！ 涼ちゃん馬鹿！

前田兄

…だから、だから、腎臓はやっぱあげられねえです。

前田兄

(もっと泣いて)いい話だな。兄妹愛。

とトラックの荷台が開いた音。

そして満寿夫の絶叫が聞こえる。

満寿夫

何だコレ！やだやだやだやだ怖い怖い怖い！ごめんなさい！ごめんなさい！本当ごめんなさい！やだあああああああ！

しかし荷台の閉まる音。

涼 何なんですか？

前田兄 ああ、愛があいつをトラックの荷台にね。それよりさ、腎臓許す。許すね。だからさ、

涼 あの、満寿夫さんどうなるんですか？

前田兄 は捨てちゃうと思うんだけど、腎臓に関してはもしどうしてもって話になっても、愛の腎臓ですり替えて上手く誤魔化してあげるから。ね。

涼 満寿夫さん、殺しちゃうってごどなんですか？

前田兄 うん。でもあいつも殺生しちゃってんの。俺の作った拳骨二世をさ。だからいいんだよ。

涼 んでも、人ですよ。

前田兄 だけどこっちもリンゴやられちゃってんだよ。

涼 ……

前田兄 それよりさ、さっきのもう一回話してもらっていい？ お兄さんの帰り道のこれ以上カダワになんたってやつ。ちよっとまた泣いちゃうかもしれ

涼 ないけど。俺弱いんだ兄弟もの。ずうっと俺らも二人きりだったからさ。
(怯えるように立ち上がって) アダス、ちよっと、やっぱ行がなぎや。

前田兄 何で？ さっきの話もう一回してよ。

涼 ごめんなさい。

前田兄 ちよっと待ってよ。

涼は行くこうとする。と、前田弟が出てくる。

前田兄 おつかれ。

前田弟 ……

前田兄 荷台の中、何だった？

前田弟 ……

前田兄 どうした？ ほら涼ちゃんもこっち来て。

前田弟はどぼっと白い液を吐く。

前田兄 愛！？

前田弟 ……何だ？

前田兄 大丈夫か？

前田弟 うん。多分。

前田兄

何これ吐いたの？ あ、お前やっぱ飲酒運転？

と涼は走り出す。

前田兄

あ！ おい！

前田弟

涼ちゃん！

前田弟が追っていく。前田兄は足を引きずりながら追いかけてようとするが、ふと足を止め、トラックの方に向かっていく。

事務所内。中では穴という穴から血の豊蜜が寝かされている。茅ヶ崎と夏目はいない。蜜雄は一缶の農薬をじっと見つめて座っている。豊蜜が起きあがる。

蜜雄

おお、気づいたが。

豊蜜

社長（しゃちょう）だっは？

蜜雄

さあな。さっき出でったよ。

豊蜜

そうが。

蜜雄

オメこいづ飲んだのが？

豊蜜

（頷く）

蜜雄

俺さ当てつげが？

豊蜜

そんなんでね。ホントについてねえっていうが、気が付いたらコップ一杯

蜜雄

飲み干してたんだ。

豊蜜

バガ豊蜜（とよみづ）が。

蜜雄

バガバガ言うなっっちゃ。バガバガ言ってる兄ちゃんもバカだべっっちゃ。

豊蜜

俺の何処（どこ）バガだ。

蜜雄

バガでねが。大バガでねが。そいな農薬（のうやぐ）隠（かく）し持って組

豊蜜

合敵（てぎ）に回すて、大バガだ。

蜜雄

そいづ飲んだオメの方がよっほどバガでねが。

豊蜜

飲んだんでね！ 飲んじやっただんだ！

蜜雄

同ずだべ。結果的には同ずだべ。寧ろよおぐ似てる。同ず。ほぼ同ずだべ。

豊蜜

…確かにオラバガがもしれね。

蜜雄

んだから何遍もそう言ってるでねが。こいづは飲むもんでね。

豊蜜

そんなもんでね。

蜜雄

これも相当だべ。

豊蜜

オラ、オラ人っこ、刺した。

蜜雄

え？

豊蜜

人、刺したっっちゃ。

蜜雄
豊蜜

…。
オラ駄目な男（おどこ）だ。兄ちゃんに、人に迷惑かけるような真似よせつて言ってるオラがそれじゃ話にならね。

蜜雄は豊蜜に近くのを投げつける。

蜜雄

誰を？

豊蜜

名前は知らね。組合の、ほれ、涼に近づいた男（おどこ）だ。

蜜雄

！？ 満寿夫が？

豊蜜

名前は知らね。四角（かぐ）い顔の口（くち）の悪い男（おどこ）だ。

蜜雄

よぐやった豊蜜（とよみつ）。

豊蜜

え？

蜜雄

あの腐れ男（おどこ）、刺したんなら兄ちゃん何にも文句ねえ。

豊蜜

兄ちゃん、人刺したんだベオラ。

蜜雄

かまわね。寧ろ刺せ。ああ〜いいでねが。それでこそ男（おどこ）だぞ豊蜜

（とよみつ）。

豊蜜

なして？ なして人刺して褒められるのや？

蜜雄

んだって嬉しいもの。

豊蜜

そいな心持ちだがらそいな農薬（のうやぐ）もりもり使えでしまうのでね

が！ 人のごど、つっとも考えねがら！

蜜雄

オメはずうつとそいなことばっかだな。何年かぶりに褒めでやったのによ。

豊蜜

褒められたぐなんかね！ これ以上薬撒ぐならオラ、そうオラが全部飲み

干してやつつお。こうなったらもう怖ぐねえもんね。味（あず）はそんな

悪ぐねえし、咳（せき）も止まるし、願ったり叶ったりだ。

体中から血出してる奴が何言ってるのや。

豊蜜

何処（どこ）だ！？ 農薬（のうやぐ）さ何処（どこ）だ！？

蜜雄

…。

豊蜜が農薬を探すが見あたらぬ。

豊蜜

隠（かぐ）したな兄ちゃん？

蜜雄

隠（かぐ）してね。

豊蜜

じゃあ、じゃあ何処（どこ）さあんのや農薬（のうやぐ）は！？

蜜雄

もうねえ。

豊蜜

ねえのが！？ もう撒いたのが！？

蜜雄

こいな冬に撒ぐわけね。

豊蜜

んじゃあ何処（どこ）さやったのや！？

蜜雄

…。

豊蜜

兄ちゃん！

蜜雄

組合さ差し出した。

豊蜜

…嘘だあ。

蜜雄

嘘でねえ。ほれオメんどこの社長さんとふざげだおんちゃん、

豊蜜

夏目さんだべ。

蜜雄

ん、あの二人に組合に差し出してきてもらってんだべ。もうこりだっけだ。

豊蜜

(と最後の一缶を見せる)

蜜雄

本当が？

豊蜜

兄ちゃん嘘嫌いだべ。お金(がね)、あげっからって言ったら飛び出してっ

蜜雄

た。東京モンはゼニっこばっかだな。

豊蜜

切羽詰まってるから。んだけど兄ちゃんだってそいな金あんのが？ ねえ

蜜雄

んでねが？ 言っただらオラが行ったのに。

豊蜜

オメ寝でだべ。

蜜雄

揺すれば起きださ。それが兄ちゃん自分で行けば。

豊蜜

血だるまのオメ置いでが。

蜜雄

…。

豊蜜

まあ、金は何とかするべ。

蜜雄

何とかするべって…なんじよするつもりだべ？

豊蜜

土地(とち)っこ売って、もう好きなものだけ作(つく)ってこずんまりやるべ。縮小すれば強い農薬(のうやぐ)使う必要(ひつよう)もなくなる。

豊蜜

…。

蜜雄

そんでまたやり直すべ。そすたらオメも帰ってきてくれるべ？

豊蜜

何か気持ちわりいぐれえの優しさだなや。

蜜雄

べっこ無理しすぎたべ俺も。ま、でも裁判が終わってがらになるがらまだ

豊蜜

先(さき)かもしれねがな。

蜜雄

裁判って？

豊蜜

組合に差し出したがらその可能性もある。

蜜雄

ええ？

豊蜜

仕方ねえ。覚悟は出来(でき)てる。

蜜雄

んだら、んだらば、その最後の缶はこっちさよごしてける。

豊蜜

こいづはだめだ。

蜜雄

なして。

豊蜜

こいづは、こいづは思い出だ。

蜜雄

そいな思い出見だ(ごどね)。

豊蜜

俺はこいづ見で気持ちよぐ農薬(のうやぐ)撒いでだ日々を思い返すんだ。

蜜雄

あれが？ ノスタルジーが？

蜜雄　　ん。それだ。ノスタルジーだ。

とそこに夏目と茅ヶ崎が険しい顔で飛び込んでくる。

豊蜜　　あ！

茅ヶ崎・夏目　（顔を見合わせる）

豊蜜　　おがえんなさい。すいません。ご迷惑かけて。

茅ヶ崎・夏目　…（顔を見合わせる）。

豊蜜　　…。

蜜雄　　…組合の方は大丈夫だったのが？

茅ヶ崎・夏目　…。

そのまま事務所の中央の方まで無言で行く。

蜜雄　　おい。

豊蜜　　おいってことはねえべ兄ちゃん。助けて貰って。

蜜雄　　助けて貰った覚えはね。

と茅ヶ崎と夏目は両手でハイタッチを2回して抱き合い、離れて笑い出す。

蜜雄　　何だ気持ち悪い。

豊蜜　　社長？　どうしたんですか？

茅ヶ崎　　佐藤くん！　元気になってるよね？

豊蜜　　ええ。何とか。ちょっとまだ、うってなりはしますけども。

それを聞いて再び茅ヶ崎と夏目は笑う。

蜜雄　　組合の方はどうなりますたがね？

茅ヶ崎・夏目　（笑ってる）

蜜雄　　（声を大きくして）どうなりますたかね？

夏目　　いやいやいや、いやあ最高。最高ですよ。本当お兄さんありがとね。

蜜雄　　何が？

夏目　　これ見てこれ。

夏目はポケットから金を出す。

蜜雄　　そいづは？

夏目　これ。これな？

茅ヶ崎　いや、僕は反対したんですよ。

夏目　いやでも結構乗ってきたよ。

茅ヶ崎　え？　そうでしたかあ？

夏目　乗った乗った。凄かったもん。

豊蜜　何したんですか？

夏目　いやさ、例の農薬、組合の連中に差し出そうって道中さ、こうね、

茅ヶ崎　いや、夏目さんがね、この農薬、このまま渡したんじやガキの使いみたいで納得いかないって言い出して、それで農薬をね、

夏目　俺らが奪ってきてやったからタダじや渡せねえと言ったみたのよ。試しにね。もし駄目だったら、うちよーんてしようってね。

茅ヶ崎　そりゃあもううちよーんね。

夏目　それに茅ヶ崎さん石投げつけられてるから、被害被ってることもこうやって傷を見せながら主張してね、

茅ヶ崎　もうこうですよ。こんな目して。

夏目　で、「出る」と「出た」っていいんですよ」

茅ヶ崎　あれ夏目さん格好良かった。あれ良かった。

夏目　そしたら組合の奴ら円陣組んじやってな、

茅ヶ崎　もうまん丸の。

夏目　で待ってたらこれお礼ですって。

茅ヶ崎　「あ、これだったらもうちよっと話になんないですわ」あれ利いたね。で、「その代わり裁判沙汰になった時にはこっちは一切口出ししやせんから」

茅ヶ崎　「しやせんから」が良かったね。そしたらこんだけ。

夏目　お兄さんとこにも半分は払いますよ。

茅ヶ崎　そうそう。これを俺らに任せてくれなかったら、こんな素敵なことにならなかったんだから。

夏目　これとさっきの愛のやつの百八万合わせたら支払い済ませておつりが残るハズだからね。

茅ヶ崎　そんでそのお釣りで、夏目さん！　ちよっとだけでも。ねえ！

夏目　苗木だろ。苗木買おうよ。

茅ヶ崎　はい！　再スタートだよ再スタート！　ちやちやっこのトラックの中身処分してさ。そうだよ！　あの梱包材解体してもうちよっと小ぶりの作ってそれで売ろうよ。そんでちよっとずつ借金返しながらやってこうよ！　それ前に俺が言っただけ反対した案じゃん！

夏目　そう？！　名案じゃないですか夏目さん！　それしましょうよ！　それやって再スタートしましょうよ！

茅ヶ崎

夏目 だったら俺既にプランあるから、すぐにでも始められるんだよ。何で前

言った時は言語道断だみたいなこと言ってたじゃねえかよ。

茅ヶ崎 ごめん。もうリング作れないわ包めないわで呆然としちゃってさ。

夏目 いいよもう許す！ じゃやろう。それでやろう！ このトラックも使っ
てやろう！

茅ヶ崎 トラック最高！（くるっと蜜雄に向いて）だからほらこれ受け取って。

豊蜜 兄ちゃん？

蜜雄 ……

茅ヶ崎 貰ってくださいよ。これから大変でしょ。

蜜雄 貰っとげ。

豊蜜 兄ちゃん…。

蜜雄 ……んだったら、これ…。

と蜜雄は札束を出す。

茅ヶ崎

これ…。

夏目 これ（と百八万置いてあった場所見て）こっち八万…、

蜜雄 こっつ百万。

夏目 え？じゃ…

豊蜜 ！？ ネコババが！？

蜜雄 （頷いてから）農薬（のうやぐ）を組合に渡すって決めてお二人出でっ
たら、急にそこに無造作にあった札束が仏（ほどけ）様に見えで。

豊蜜 何してんのや！？

蜜雄 いや、本当に、本当に仏（ほどけ）様だったんだっちゃ。諭吉さんが仏様
になったんだっちゃ、こいづは本当。許してけろ。

夏目 えー？ これは、これはアウトだよね？

茅ヶ崎 うーん、

夏目 駄目でしょこれは。

豊蜜 アウトだべ兄ちゃん！ ベン・ジョンソンみでえな真似しくさって！

蜜雄 何も言えねえ！ オメの言う通りベン・ジョンソンだ！ ベン・ジョンソ
ンだ！

茅ヶ崎 いやセーフ。

夏目 セーフ？

茅ヶ崎 うん。ジョンソンさんはセーフにしようよ夏目さん。

夏目 何で？ だってアウトにした方がおつりも多いよ。

茅ヶ崎 必要な金は揃ったんだ。それに心配してた佐藤くんも幸い大事には至らな
かったわけだしセーフだよ。

蜜雄

社長さん、

夏目

でもこれは…

茅ヶ崎

さつき許すって夏目さんも言ってくれたじゃないですか。今はさ、僕も許す気持ちで満たされちゃったんですよ。あの小生意気な四角い顔もさつきは暴走して捨てるみたいなこと言っちゃったけど、それって下手すると殺人じゃない？

夏目

殺人そのものだよ。

豊蜜

僕が刺したりすてしまつて、

茅ヶ崎

いやいや、それはあの流れじゃ仕方ないし喧嘩の域だよ。いやでも危なかったよ、追い打ちかけて息の根止めちゃうとこだったんだからさ。お金がなくなるとさ、人は荒むね。本当荒む。そういつた意味で俺たちは殺人、ジョンソンさんは百万置き引き、でもどっちも未遂で済んだわけだからさ。笑おうよ。笑ってセーフで許そうよ。

蜜雄

今は社長さんが仏（ほどけ）様に見えます。ほら豊蜜オメも頭（あだま）下げろ。

豊蜜

兄がとんだ失礼を致（いだ）すました！

茅ヶ崎

いいよ。許した！

蜜雄

ふざげだおんちゃん…

豊蜜

夏目さんだべ。

蜜雄

夏目さん、

夏目

…じやいいよ。許す！

蜜雄

おんちゃん！

豊蜜

夏目さんだべ。

茅ヶ崎

よし。じゃあお互いの再スタートを祝って今日は乾杯だ。

と茅ヶ崎は最後の農薬缶を掴む。

豊蜜

社長それは！

茅ヶ崎

これは危ないとこだったぞ。

夏目

何でそれだけ残したんだよ。ばれたらまた面倒だろ。

豊蜜

それは兄ちゃんのノスタルジーなんです。

茅ヶ崎

佐藤くんに何かあったら飲もうって残したんでしょう。

豊蜜

え？

茅ヶ崎

違いますか？

豊蜜

兄ちゃん…？

蜜雄

…じゃあ、そうです。

豊蜜

じゃあって何だよ！？

夏目 あんたほとんど格好悪くなってってるけど大丈夫？
蜜雄 人を見掛けで判断さしねえでくれますか。
夏目 何処をえばってんだよ。

と前田弟が何やらシートを引っ張ってやってくる。

茅ヶ崎 あ！ 愛くん！ 噂をすれば！
豊蜜 あれ？ 噂してましたっけ？
夏目 もう嬉しくて何でもいいんだよ。
茅ヶ崎 愛くんのおかげだよ。正直。ね。
前田弟 あの、
茅ヶ崎 何？ 何それ？
夏目 あいつどうしたあいつ？ あの四角い顔。
蜜雄 あど涼も見掛（が）けねがったが？ こっちさ別々（べつべつ）に向かった
 筈なんだけども。
豊蜜 え？ じゃこんだげ遅くちや何があっただんでねが？
前田弟 涼は、涼ちゃんは、多分大丈夫。
豊蜜 会ったんですか？
前田弟 大丈夫。

茅ヶ崎はシートの中見てる。そしてそのまま後ろにのけぞる。

茅ヶ崎 それ…。
夏目 何？
茅ヶ崎 …。
夏目 何よ？

と夏目も見る。

夏目 何だよこれ…。

とシートが動く。そして手が出てくる。溶けたような腐ったような手。前田弟以外の一同呆然とする。

豊蜜 何ですかねそれ？
前田弟 兄貴…。
夏目 え？

前田弟

兄貴。

夏目

前田？

前田弟

(頷く)

夏目

どういうことだよ？

前田弟

(泣き出す)

夏目

泣いてちやわかんねえだろ！ 何なんだよこれ！？ どうしてこんなな

ってんだよ！？

前田弟

(泣いてる)

夏目

おい！

と夏目は前田弟に詰め寄る。

前田兄

夏目、

夏目

おい呼び捨てやめろって・・・これ前田！？

前田兄

あれ、まずいわ。

夏目

何？

前田兄

あの、トラックの中、変。

夏目

変って？

前田兄はひどく咳き込む。白い液体が飛び散る。

夏目

何だこれ？

茅ヶ崎

愛くん、トラックの中って何なの？

前田弟

わかんない。

茅ヶ崎

え？

前田弟

わかんないんです！ ただ、逃げた涼のやつ追って戻ってきたら、兄貴が

蜜雄

トラック荷台に突っ伏してて。あいつなんかもう…、

前田弟

あいづって？ あいづって涼じゃねえべっちゃな？

蜜雄

あの、男。太った四角い顔の。

前田弟

良(い)がったそれ満寿夫だべ。涼はな、あいづは危ないどころがらささっ

豊蜜

と逃げろど教えであるべな。

蜜雄

その満寿夫さんはどうなったんです？

前田弟

満寿夫ごときに「さん」はいらね

前田兄

もう、こんなもんじゃ…
え？こんなって…どんなんじゃ？ ウエホウエホ！ (咳き込むし液体が飛

夏目

ぶ)
喋んな前田！ 色んな意味で！

前田兄

でもちよっとだけ。

夏目

じゃちよっとだけな。

前田兄

あれ多分、(咳き込むし液体飛ぶ)

夏目

何!?

前田兄

ウエホウエホ! (咳き込むし液体飛ぶ)

前田弟

みんなそんなに汚がらないで! 兄貴だぞ!

豊蜜

そういつてる愛さんが一番離れでるじゃないですか!

前田弟

言わないで聞こえちゃうから!

茅ヶ崎

許す!

夏目

もう許すはいいよ。

前田兄

お前はいつも逃げ足が旺盛だったな。

前田弟

兄貴が遅すぎるんだ。

蜜雄

そんな話は今いいべ。

夏目

トラックの中は多分なんだ?

前田兄

ああ、トラックの中あれ、

夏目

何?

前田兄

どっかの工場のゴミだな。ウエホウエホ! (咳き込むし液体飛ぶ)

夏目

もういい何か飛ぶからシート包んで。

豊蜜

僕ですか?

夏目

バイトだろ?

豊蜜

こんだけ血流してる人間をまだバイトで使いますか。愛さん兄弟なんだが

ら!

前田弟

(泣いてる)無理です。

夏目

じゃああんた。さっき置き引き許したんだから。

蜜雄

許してけなくていいがす。

豊蜜

兄ちゃん!

蜜雄

おつかねえんでねえ! 本当に足がすくんで動げねえだ!

豊蜜

おしよすい!

と茅ヶ崎が行って、シートをしめる。

茅ヶ崎

前田くん。

前田兄

はい。

茅ヶ崎

苗木、買えそうなんだよ。

前田兄

マジですか!?

茅ヶ崎

うん。買えそうなんだよ。

前田兄

すげえ。

茅ヶ崎 だから買ったらさ、一緒に罵声浴びせようか？

前田兄 俺の罵声やバイですよ。

茅ヶ崎 うん。

前田兄 …。

茅ヶ崎 前田くん？

前田兄 園長。

茅ヶ崎 ん？

前田兄 怖いですわ。

茅ヶ崎 うん。

前田兄 体中痛いのを意識が遠のくんですわ。

茅ヶ崎 開けようか？

夏目 まずいよ茅ヶ崎さん、

前田兄 わかってんだ夏目！

夏目 ごめんね。

前田兄 気持ちもないのに謝るな。

夏目 あるよ今！ 今あるのに！

前田兄 …。

茅ヶ崎 前田くん？

前田兄 …。

茅ヶ崎 前田くん！？

前田兄 …。

前田弟 兄貴！

茅ヶ崎 大丈夫。寝息が聞こえる。微かだけど。

前田弟 (泣いてる) 医者呼ばなきゃ。

蜜雄 (思いついたように) なあ、今そのトラックの荷台ってのは開いでんのが？

前田弟 …？

前田弟 はあ？

蜜雄 オメに聞いたんだ。開いでんのが！？

前田弟 …だって閉める間なんて、

と前田弟がうっとなって咳き込み、トイレに。皆無言でその姿を目で追う。トイレでは物凄い咳と吐く音。豊蜜がトイレを覗いて出てきて。

豊蜜 多分…。

他 …。

夏目が急いでトイレの前に行き、

夏目

お前そのゴミみたいなの触った？ 触ったの？

前田弟

触ってない。

夏目

え？

前田弟が顔を隠して出てくる。

前田弟

触ってないです。

夏目

お前…顔…

蜜雄

隙間っこ、埋めろ。

豊蜜

え？

蜜雄

隙間っこ、埋めろ！

急いで事務所の隙間を埋め始める豊蜜。次いで夏目。茅ヶ崎も。

豊蜜

兄ちゃんもやれ！

蜜雄

俺まだ足が無理だ…。

豊蜜

おしよすいだー。

皆、必至に埋めていく。と突然トラックの運転席から楽しい音楽が。いつの間そこに男がいて音楽に乗ってる。真田三平だ。皆、呆然と見る。

前田弟

(顔隠したまま) ああ…！

暗転。

事務所内。隙間は乱雑に埋められている。真田が前田兄のシートの中を覗いている。その状況を見ている茅ヶ崎、夏目、前田弟。奥の畳スペースでは豊蜜が横になっておりびくんびくんと奇怪な動き。蜜雄は先刻と同じ場所で豊蜜を見ている。やがて真田はシート閉める。

真田 こういうことになるんだからさあ…。

前田弟 すいません。

真田 こっちはああいうもの扱って、ああいう金額貰ってるわけなんだからさ。ちよつと魔が差して…

夏目 魔が差したじゃすまないんだよ！ 何でこんなトラック、ヒッチハイクな

前田弟 んかしてんだよ。

前田弟 だってこっやったら乗せてくれたから。

夏目 何であんたもこんなヤバイもん積んでてヒッチハイカー乗せちゃうんだよ？

真田 だって止まらなかつたら逆に怪しまれるでしょ。

夏目 止まらなければ怪しまれないよ！

前田弟 でも止まってくれた時は嬉しかったです！

真田 じゃあ何で殴ったりするんだよ！？

前田弟 だって大金見えたから。大金見えたら殴るでしょ？

夏目 大金なんか見せなきゃいいのに！

真田 見せたんじゃなくてあったの。

夏目 あったって言うてんじゃねえかよ。

前田弟 あつたら見えちゃうでしょ。

夏目 あつたら見えちゃうんだよ。

真田 見えたとしても殴るなよ。

夏目 殴った時点で負けなんだよ。

前田弟 (泣く) 殴らなかつたら手に入らないじゃないですか。

真田 泣いたって駄目なんだよ。ここ思い切り殴るから。コブんなっちゃったよ

前田弟 コブ！

茅ヶ崎 先生、

真田 あの、先生じゃないからね。

茅ヶ崎 何とかなりますかね前田くんは？

真田 (溜息ついて) 取り敢えず注射ぐらいならあるけど。

茅ヶ崎 あ、注射いいじゃないですか。注射お願いします！

真田 治るわけじゃないからね。ぼうっとさせるだけだから。

茅ヶ崎 ぼうっとさせてください。ぼうっと、ぼうっとなるだけでも。

夏目 それもやばい注射じゃないだらな？

真田 いや、やばいよ。もう色々全部やばいのにも関わらず、ちょっと油断したらその人がさあ、

前田弟 じゃ何で油断したんですか？

夏目 もういいよ。

茅ヶ崎 先生注射を。

真田 先生じゃないのに。

蜜雄 先生、

真田 だから違うんだ俺は！ 先生って言わないで先生じゃないんだからさ！

蜜雄 こっつも弟（おどろど）の様子がおかすいんです。何だがほら、びくんびくんって。

夏目 おいおい、大丈夫かよ。

茅ヶ崎 佐藤くん？ 大丈夫か佐藤くん？

真田 その人も積荷触ったの？

蜜雄 いや、こいづは農薬（のうやぐ）を飲んずまって…、

真田 何で農薬なんか飲むの？ じゃ俺のトラック関係ないじゃん。

蜜雄 んだげど、農薬（のうやぐ）だって廃棄物みでえなもんだべ？

豊蜜 その通りだぞ兄ちゃん…。

蜜雄 豊蜜（とよみつ）！

茅ヶ崎 蜜雄さん手を！ 手を握ってあげて！

蜜雄 いや、まだ足（あす）がどうにも…

茅ヶ崎 まだすくんだままなの！？

蜜雄 もう自分（ずぶん）でも自分がわからねくなってきた。

豊蜜 兄ちゃん！

蜜雄 豊蜜（とよみつ）！

豊蜜 兄ちゃん！

蜜雄 豊蜜（とよみつ）！

真田 行ってやれよ傍に！

夏目 行けないんだよ！

茅ヶ崎 夏目さん、先生にそんな口利くもんじゃないぞ。

夏目 先生じゃないんだよあいつは。

前田弟 あの注射まだですか？

真田 今こっち話してるでしょ。

前田弟 （泣き出して）こっちの方が先だったのに。

蜜雄 こっつを、こっつを先（さき）にしてけろ。

前田弟 （泣いて）順番だから！

蜜雄

そつつはシーンとしてるけどこつつはびっくんびっくんだべ。

豊蜜

んでもね、咳（せき）は、風邪はいぐなつたんだよ。

茅ヶ崎

ああ。良かったなあ。風邪良くなって。

豊蜜

社長！

茅ヶ崎

園長だ佐藤くん！

夏目

ちよっとその注射っての本当にお問い合わせいいかな？

真田

今やるから、表で積荷んとこ閉めてきて。

夏目

…え？

真田

開いてるんでしょ？ 閉めてきて。

他

…。

真田

閉めてきてよ。

夏目

あんたプロなんだろ？

真田

まあね。

夏目

閉めてきてよ素人に頼まないでさ。

真田

え？ やだよ。危ない。

夏目

危ない？

真田

危ないよ。だからさ、（前田兄指して）これだからね。こういう可能性に満

夏目

ちてるわけなんだからさ。何で殴ったりすんのかかわかんないんだよなあ。

真田

ああなっちゃうってこと？

真田

ちやちやっとやればあそこまでなんないよ。危ないってわかってるんだか

真田

ら。マスクとかして、あればゴーグルとかして、それで行ったら大丈夫だ

夏目

から。

夏目

効果あんのそれ？

真田

ないけど、したら安心でしょ？

夏目

・・・全然。

蜜雄

先生はいつつもなんじよしてんだ？

真田

開けないもん。もうこのままアクセル踏みっぱなしにして海とか湖にドー

真田

ン。その為のブロックで殴ってきたからねあの人は。そうだあの人の人に行っ

前田弟

てもらえばいいじゃん。

真田

え？

夏目

言っとくけど、閉めなきゃ注射なんかしないからね。

前田弟

行ってくれるか愛くん？

夏目

え？

前田弟

行ってくれるよな？ ここはな？ 大体ちよっとお前既に嗅いでんだか

前田弟

吸い込んでんだかしてんだろ？ だったらもう同じじゃん。

夏目

同じじゃないですよ。

夏目

同じだろ？

真田
まあ同じと思うよ。

前田弟
違う！

蜜雄
足（あす）さえ動けば俺が行ぐとこだがなー。

夏目
動けないから言ってるんだろあんたは？

蜜雄
今動げてる時（どぎ）の話（はなす）すんのは無意味でねが？

夏目
だからほら行けよ。兄ちゃん助けたいんだろ？

前田弟
助けたいけど、

真田
このままじゃどんどんどんどん広がってきちゃうよ。

夏目
（何か見つけて）あ！

蜜雄
なんじょした？

夏目はブスクの上の小さな植物見て、

夏目
枯れてる…。シナツシナになってる。

蜜雄
（駆け寄って）ああ！

夏目
ってことは…

蜜雄
もう…

真田
だからさあ、あれ扉閉めたら広がらないんだからさ、ウダウダ言ってる
で閉めてこようよ勇気振り絞ってさ！俺あんたらとここで御陀仏なん
てやだよ。

夏目
あ。

蜜雄
ん？

蜜雄さん、これ、

ん？ ん？

こっち来たよね？

ん？

さっきまでそっちだったでしょ？

…ずっとこっつだったべ。

いや絶対にあっちだった！だよな？

ここ！ ここでした！

動けば行くって言いましたよね？

いやずうっとこっつ！ こっつだったべ！

さっさとしてくれよ！

往生際が悪いですよ。

蜜雄さん、

本当にずうっとこっついだのに！

こっちでもそっちでもいいですよ。それよりもっとこっちで佐藤くんの手

茅ヶ崎

蜜雄

茅ヶ崎

夏目

真田

蜜雄

夏目

前田弟

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

夏目

真田

蜜雄

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

夏目

真田

前田弟

夏目

蜜雄

夏目

蜜雄

前田弟

真田

握ってあげてください。

え？

兄ちゃん、

豊蜜（とよみづ）！ 大丈夫が？

何がな、ガギの頃、涼ど三人で借りて見た、西城秀樹（ひでぎ）と異国（いごく）の人（ひど）の、ダイエッドだったがラファイエッドだったが、サファイアが？ どのサファイアがウチの子だったか誰の子だったが、この子（こ）誰の子（こ）、ウチの子でね！

ビデオの思い出子供頃の思い出が混ざってんな。

この子（こ）誰の子（こ）、西城秀樹の子でね！

豊蜜（とよみづ）！

どんなビデオ見てんだよそいつは？

ただ閉めたらいいんですか？

え？ ちょっと茅ヶ崎さん、

閉めてきますよ。

いいんですか？

いいよ。だってこのままじゃここでリング作れなくなっちゃうよ。

あ。

閉めただけでちゃんと密閉されるんですか？

がちっというまで閉めたらそれでオッケーだから。がちっというまで閉めたらオッケーな作りになってるけど、一応門掛けないと駄目だからね。はい。がちっ。がちっというまでで更に門ですな。

と茅ヶ崎は出ていこうとする。

ちょっと待ってよ茅ヶ崎さん！

何ですか？

あの、

はい？

あの、

何ですか？

俺行ってきます。

と真っ赤になった前田兄が起きあがる。

前田弟

兄貴！

前田兄

俺行ってきますね。

蜜雄

豊蜜

蜜雄

豊蜜

蜜雄

豊蜜

蜜雄

真田

茅ヶ崎

夏目

茅ヶ崎

前田弟

茅ヶ崎

前田弟

茅ヶ崎

真田

茅ヶ崎

夏目

茅ヶ崎

夏目

茅ヶ崎

夏目

茅ヶ崎

前田兄

真田
それが一番いいね。

茅ヶ崎
前田くんは寝てろ。

前田兄
園長、

茅ヶ崎
おお。

前田兄
リンゴ、拳骨ロワイヤル、作りますよね？

茅ヶ崎
当たり前だろう！ だって食べてみたいだろう！？

前田兄
はい！

茅ヶ崎
一緒に渋っい拳骨作ってやろうよ！

前田兄
（泣いて）はい！

茅ヶ崎
だから前田くんはその為にも、今はゆっくり、

前田兄
行って来ます！

と前田兄は飛び出す。

沈黙。前田弟は扉に行き、

前田弟
兄貴！

真田
よしじゃあ注射は一本だね。

夏目
…なあ、

真田
ん？

夏目
あいつ助かるのか医者行けば？

真田
…。

夏目
おい、

真田
そりゃ無理だろ。

夏目
…。

前田弟
（泣く）

夏目
…泣くなよ。

真田は豊蜜の方に行き、

真田
よし、じゃあ注射するぞ。

と真田は豊蜜に注射する。

豊蜜
涼が？

真田
違うよ。

豊蜜
ごめんな。

真田
涼じゃないぞ。

豊蜜 暗間になってやっどこオメの気持ちに近づげだぞ。
真田 ああ、そう。
蜜雄 涼っぽく返してやってける。
真田 嫌だよ。誰だ涼って？
豊蜜 兄ちゃん、
蜜雄 ん？
豊蜜 やっぱす農薬（のうやぐ）やめでいがったな。
蜜雄 んだな。
豊蜜 涼も喜ぶべ。
蜜雄 んだな。
豊蜜 合わせて三つの暗間だべ。
蜜雄 んだな。
蜜雄 片目（かだめ）っこ三つ。
真田 あ、死んだ。
蜜雄 んだな。
真田 死んだ。
蜜雄 …え？
夏目 死んだ？
真田 ま、農薬飲んだらなあ。
夏目 え？ 今？ 今死んだってこと？
真田 死んだ死んだ。（手持ち上げて放す）ほら。
蜜雄 豊蜜（とよみづ）…。豊蜜（とよみづ）…！
真田 片目っこ三つ。
蜜雄 豊蜜（とよみづ）…？
真田 あ、今のは俺ね。
蜜雄 （真田押して）何ぬやオメは！？
真田 さっきそれっぽく返せって。
蜜雄 豊蜜（とよみづ）！

蜜雄は泣きながら豊蜜と何度も呼び、揺する。茅ヶ崎が豊蜜に近づいていく。

蜜雄 （茅ヶ崎に）死んずまったべ。豊蜜が死んずまったべ。
茅ヶ崎 死んじやいましたか。
蜜雄 死んずまったべ。死んずまったべ。豊蜜が死んずまったべ。死んずまったべ。死んずまったべ。豊蜜が農薬（のうやぐ）で死んずまったべ。死んずまったべや。死んずまったべっっちゃ。豊蜜が農薬で死んずまったべっっちゃや。

真田 狂っちゃったよこの人。

とトラックの荷台が閉まる音がする。

前田弟 兄貴！ 兄貴が閉めた！ 兄貴！

と前田弟は表に飛び出す。

夏目 おいまだ出んな！

しかし前田弟は出ていってしまった。真田が急いで開け放たれた扉閉める。

真田 開けたら閉めてってくれないときあ。本当素人困るよなあ。

真田はそう言ってデスクの上の金を取り、トラックの運転席に向かう。

夏目 どこ行くんだよ。

真田 捨てに。

蜜雄 何処(どこ)に？

真田 だからその辺。あんたら暫く外出ない方がいいよ。

蜜雄 この辺(あたり)にこいな危ねえもん捨てんのが。

真田 それが仕事なの。

そこに前田弟が戻ってくる。

真田 だから開けたら閉めろよ。

茅ヶ崎 前田くんは？

前田弟 それが、

夏目 何だ？ どした？

前田弟 兄貴、なかなか閉まらないもんだからって、

夏目 ああ。

前田弟 中から。

夏目 あ？

前田弟 中から閉めたって。

他 …。

蜜雄 何て？

前田弟 中から扉閉めて、がちっというまで押さえたって。

夏目
じゃ前田は？

前田弟
(泣いて) 中で聖子ちゃん歌ってる。

真田
もう訳がわからん。

茅ヶ崎
助けに行こう。

真田
何でだよ！？

茅ヶ崎
中にいるんだよ前田くんが！

真田
もうあんな状態だしいいだろ？ それにもう死んでるよ！

茅ヶ崎
前田くんを舐めるんじゃないぞ。前田くんは絶対生きてる。

真田
あの中で扉閉めたんならもう死んでるって！ 俺もう行くぞ。

前田弟
兄貴が乗ってるのに！

真田
また開けたら本当にここにいる全員死ぬぞ！ 門掛けたのか？

前田弟
かけるわけねえだろ？

真田
じゃかけてくるわ。

夏目が真田止める。

真田
何だよもう。

夏目
ちよっと待てよ。

真田
放せ。

夏目
黙れって！

皆黙る。

前田弟
…あ。

トラックの中から前田兄の歌う聖子ちゃんの歌が聞こえる。

真田
あん中でよく歌えんな…。

茅ヶ崎
まだリンゴの歌歌ってやがら。

真田
いや恋の歌だろこれ。

茅ヶ崎は手拍子始める。

真田
何？

茅ヶ崎はそのまま中の声に合わせて歌い始める。物凄いテンション。

夏目
真田
茅ヶ崎さん、
馬鹿か。

つられて前田弟も歌い出す。そして蜜雄も。やがて夏目も一緒に。前田弟は途中また一度吐くが、すぐまた歌う。

真田
本当にお前ら馬鹿だ！ 放せ！ おい放せって！

狂ったように歌っているが、突然茅ヶ崎が歌うのをやめる。そうすると他にも歌いやめる。もう前田兄の声は聞こえない。

前田弟
兄貴！ おい兄貴！

沈黙。歌っていたそれぞれもまた沈黙。前田弟は泣く。
真田は夏目の手を振り払い、再びトラックに。前田弟は茅ヶ崎を見る。

茅ヶ崎
前田弟
真田
出してやろう。
(泣きながら頷く)
いい加減にしろよ。付き合いきれねえ。

とトラックに乗り込む真田を蜜雄が引きずり出す。

真田
真田
蜜雄
蜜雄
真田
蜜雄
真田
蜜雄
何すんだよ！
おい、冗談やめてくれ。だってどうすんだよ？ さっさとあんなもん捨てちまった方がいいだろ！
オラ農薬（のうやぐ）もやめたんだ。
だから何だよ知らねえよ！
こいづも捨てさせるわけいがね。
は？

蜜雄はいきなりどこから出て来たのかわからないコンクリートブロックを真田の頭に振り下ろす。真田は倒れる。蜜雄はゆっくりと豊蜜の方を見る。

蜜雄
やったべ。豊蜜（とよみつ）。

蜜雄はブロックを放る。

蜜雄 茅ヶ崎（つがさぎ）さん、

茅ヶ崎 はい。

蜜雄 前田くんあそこっから出た後（あと）、トラックの事（こと）オラに任（ま）が（せ）でもらってもかまわねっすか？

夏目 どうするつもりだよ？

蜜雄 わがねげど、何とかすますから。

夏目 何とかって…。

茅ヶ崎 それはちよっと困ります。

蜜雄 え？

茅ヶ崎 これはウチの愛くんが持ってきたトラックです。だからこれはウチで預（ま）かります。

夏目 預（ま）かるってどうすんの？

茅ヶ崎 それは、

蜜雄 どっかに捨てんなら（※なげんなら）オラに渡（わた）すてけねすか？

茅ヶ崎 捨てませんよ。だって、これは、これは今や、この会社の備品（びひん）なんですから。

蜜雄 備品（びひん）って、

茅ヶ崎 ね。だから蜜雄さん、あんた佐藤（さとう）くん連れて、妹（いもうと）さんとこ帰（かえ）ってやってください。ね。

蜜雄 …。

茅ヶ崎 夏目さんと愛（あい）くんもクビね。

夏目 ちよっと

前田（まえだ）弟（あに） 待（まち）ってくださいよ。兄（あに）貴（あなた）あそこから助け出すんだから俺（おれ）は残（のこ）りますよ。

茅ヶ崎 駄目（だめ）です。

と蜜雄（みつお）がかかっていた茅ヶ崎（かぎさき）リンゴ園（りんごえん）の作業着（さぎょうじやく）を羽織（はおり）る。

茅ヶ崎 そんなん着（き）たって駄目（だめ）ですよ蜜雄（みつお）さん。困（こま）りますって。

蜜雄（みつお）は土下座（どげざ）する。

蜜雄（みつお） 弟（あに）（おどうど）の前（まえ）でカッコつけでえんです。許（ゆる）すてもらえないですがね？

茅ヶ崎 …顔（かほ）上げて下さい。

蜜雄（みつお） 許（ゆる）すてもらえるまでは。

茅ヶ崎 蜜雄（みつお）さん、

妹（いもうと）（いもつぐ）の（ご）じぶんなら心配（しんぱい）すんばい（いら）ねえです。愛（あい）くんにお願（ねが）いすようと思（おも）ってるんで。

前田弟

え？

蜜雄

涼のごど、お願いすてもいいがすか？

前田弟

だって俺、兄貴あん中いるんだし、残らなきゃ。それに俺もう、何か身体
おかしいみたいだし。

蜜雄

今なら病院行ってみだら治るがもすれね。

前田弟

でも、

蜜雄

カッコつけさせでける。俺こいづやりとげねえど涼に会わず顔ねえ。

茅ヶ崎

愛くん、

前田弟

はい。

茅ヶ崎

そうしてやってくれ。

前田弟

でも、

茅ヶ崎

お兄ちゃんのごとは、俺に任せてくれないかな。

前田弟

…。

茅ヶ崎

涼ちゃんトコ行ってやって。お兄ちゃんがあんだけ強いんだから、絶対愛
くん病院行ったら治るから。

前田弟

…。

茅ヶ崎

頼む。

前田弟

(泣いて) だって、だって俺全然カッコつけらんねえじゃないすか。

茅ヶ崎

カッコイイよ。お兄ちゃんの分まで生きてたらもっともっとカッコイイよ。

前田弟は泣く。そして上着を着る。

蜜雄

涼のごど宜しく頼みます。

前田弟

浮気すんだよ涼ちゃん。

蜜雄

目っこ見えねごど気にすてあんななってしまったんだ。「すんな」と俺が言
ってだって伝えてける。

前田弟

(頷く)

蜜雄

あど、「すまねがった」と。

前田弟

…。

前田弟はポケットから携帯出して、充電する。

前田弟

そんじゃ。

茅ヶ崎

うん。

前田弟

兄貴に宜しくです。

茅ヶ崎

…うん。

前田弟

…聖子ちゃんの歌、ありがとうございました！

と前田弟は出ていく。

茅ヶ崎 …泣き虫だなああの兄弟は。さて、じゃ夏目さんも。

夏目 え？

茅ヶ崎 東京戻って下さい。

夏目 俺は、

茅ヶ崎 本当に。

夏目 俺は、もうちよっとだけいるよ。

茅ヶ崎 ちよっとだけじゃすまないから。

夏目 俺は、

茅ヶ崎 夏目さん、いいんです。

夏目 …。

茅ヶ崎 ね。

夏目 …。

夏目は上着持って足早に出てく。

茅ヶ崎 じゃ、やりますか。

蜜雄 ええ。で、どうするのっしや？

茅ヶ崎 とりあえず全部中に入れましょう。

蜜雄 全部？

茅ヶ崎 ええ。全部。

蜜雄 …わがりました。

二人は表に出る。やがてトラックが揺れる。荷台の扉が開いたのだ。二人はまずボロボロの前田兄を、そして次に廃棄物の入っているであろう容器を次々に運び入れる。途中茅ヶ崎も蜜雄も何度も吐く。しかし運ぶ。運ぶ運ぶ運ぶ。段々二人ともフラフラになっていく。しかし運ぶ運ぶ運ぶ。やがて、トラックが再び揺れる。後ろを閉めたのだ。閉めた茅ヶ崎が入ってきて

茅ヶ崎 まずは、

蜜雄 はい？

茅ヶ崎 まずはこんぐらいで。

蜜雄 はあ。で、こいづをっ

とそこに夏目が戻ってくる。

茅ヶ崎 夏目さん駄目ですよ入って来ちゃ！

夏目 茅ヶ崎さん、

茅ヶ崎 早く出て！

夏目 俺は、

茅ヶ崎 何ですか？

夏目 何で俺がここに来たか。

茅ヶ崎 今そんな話やめましょう。

夏目 聞いて欲しいんです！

茅ヶ崎 じゃ早く言って！

夏目 俺は、その、何て言うか、

茅ヶ崎 はいもう終わり〜！

夏目 早すぎる！

蜜雄 こいづらどうすんのっしや？

茅ヶ崎 捨てもしないし、残しもしない。

蜜雄 え？

茅ヶ崎は産業廃棄物を手に取る。

夏目 そんなの触っちゃ…、

茅ヶ崎はいきなりそのおぞましい産業廃棄物を食い始める。
啞然とする二人。

茅ヶ崎 食うんですよ！

夏目 茅ヶ崎さん！

と蜜雄も食べ始める。

夏目 あんたも！

蜜雄 確か（たすか）に！ 確かにこっすりゃあ残（のこ）らねえべ！

と言ったもののそのままこれまで以上の物凄い吐き気に襲われ、吐き出して
そうになるが耐える。と電話が鳴る。しつこく鳴るので夏目が見に行く。見
た夏目は携帯を取り、蜜雄の前に。

夏目 …（蜜雄に）妹さん。

蜜雄

…(びっくりしたように夏目を見てから電話取って)涼？ 涼が？…そうが。会えだが愛さんと。そうが。(咳き込み)いやあオメの声聞こ聞げるとは(咳き込み)思ってたが(咳き込み)…許すてけるなあ…涼…
……豊蜜…。

そのまま蜜雄は激しく咳き込んで倒れて動かなくなる。

夏目

おい…。おい！

しかし蜜雄は動かない。

と茅ヶ崎が笑い出す。いや、泣いているのか。

夏目

…どうしたの？

茅ヶ崎

…これだよ。この味だよ。

夏目

え？

茅ヶ崎

これが、これがその味だよ。(死んでいる前田兄に)前田くん！ まさにこんな味だったよ俺が食ったリングゴはさあ！ 食べさせてやりたかったなあ！ こんな味だったんだよ最後のリングゴはさああ！

天を仰ぎながら茅ヶ崎は笑ったように号泣し、そのまままた食べ始める。

夏目がゆっくりと近づき、膝をつく。

夏目

そこまでひでえ味なんだ。

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

そこまでひでえ味なんだ？

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

俺なんだ茅ヶ崎さん。

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

俺なんだよ逃げたのはさ。俺があんたの大事な家族…

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

…茅ヶ崎さん？

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

茅ヶ崎さん！

茅ヶ崎

(食ってる)

夏目

聞こえないんだ？

しかし茅ヶ崎はひたすら食べていて聞こえていないよう。

夏目

聞こえないんだなあ。

茅ヶ崎

(食べてる)

夏目

茅ヶ崎さん！

茅ヶ崎

(食べてる)

夏目はいきなり茅ヶ崎の隣に座っておぞましい廃棄物を手に取り、見つめた後、思いきって嚙る。そしてその強烈な味を噛みしめて、

夏目

……………洪ついなあああ！

とその顔を茅ヶ崎が見ていた。二人はそれぞれ泣いたように笑って、またムシヤムシヤと廃棄物を食べる。
暗転。

プップーというトラックのクラクション。バーンという突っ込む音。そして前田兄弟の泣き声の中、ゆっくりと明転。血まみれの茅ヶ崎と夏目の前で泣いている二人。満寿夫は奥でカマを抜こうと必死。豊蜜はトイレにいるらしい。ゆっくりと夏目が身体を起こす。

前田兄 夏目さん！？ 夏目さん！？

夏目はゆっくりと起きあがり、倒れた茅ヶ崎の傍に歩み寄る。

前田弟 すいませんでした！

夏目 …。

前田弟 本当すいませんでした！！

前田兄、弟を手で冷たく制す。

夏目はゆっくりとトラックを見る。

前田弟 あの俺、

前田兄 もういいよ。

前田弟 よくねえよ、そんで…

前田兄 もういいってんだろ。

兄、弟を蹴りつける。

前田兄 夏目さん、動かない方がいいよ。

夏目は早足で表に出ようとする。それを前田兄が止める。

前田兄 夏目さん！ 動かない方がいいって！

夏目 積荷は？

前田兄 え？

夏目 積荷は？

前田兄 …積荷は？

前田弟 え？

前田兄 積み荷だよ。

前田弟 空っぽだけど。
夏目 …え？
前田弟 特になにも入ってません。
夏目 …。
前田兄 ほら夏目さん。

と、豊蜜がトイレから出てきて、

豊蜜 !？ 夏目さん！ 気がついたんですか！
夏目 …。
豊蜜 いぐら呼んでも返事ねえもんだがら、てつきり…良かった…。
夏目 お前、農薬は？
豊蜜 全部吐き出しましたけど。
夏目 ……。
前田兄 何でこんなことになっちゃたんだよ。(泣く)

泣き出した弟を前田兄は蹴りつける。
夏目はゆっくりと座り、茅ヶ崎を見つめる。そして目を瞑り、やがて静かに
笑い始める。

他 …。
夏目は笑いながら泣いている。

前田兄 夏目さん？どうしたんですか？
夏目 …。
前田兄 夏目さん？
夏目 …リンゴの、
前田兄 …。
夏目 …リンゴのことを、考えてたよ。
前田兄 え？

と茅ヶ崎が笑い出す。しかし夏目以外は茅ヶ崎に注意を注がない。
茅ヶ崎は身体を起こし、

茅ヶ崎 許す。
夏目 はい？

茅ヶ崎

許す！……！！

暗転。

おしまい